

Smart Setupガイド

Microsoft Windows Server 2003、HP Integrityサーバ



製品番号 : 5990-8265

2005年3月

© Copyright 2005
Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ご注意

© Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商業用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダ標準の商業用使用許諾のもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。Intel、インテルおよびItaniumはインテル コーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。Linuxは、Linus Torvalds氏の米国における登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で 사용되는場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

1. インストールのプランニング

概要	6
インストール シナリオの選択	8
インストール環境の選択	9
ローカル コンソールの使用	10
リモート コンソールの使用	11
PXE/RIS の使用	12
HP Smart Setup メディアの使用	13
Microsoft RTM メディアの使用	13
HP 再インストール用メディアの使用	13
EFI の使用	14
EFI ブートマネージャ	14
EFI シェル	14
インストール プロセス	15

2. インストールの準備

Microsoft の証明書を確認する	18
プラットフォームの互換性の確認	21
システムのファームウェア バージョンをチェックする	21
ハードウェアの互換性をチェックする	21
既存のデータをバックアップする	21
コンソールのセットアップ	22
リモート コンソールをセットアップする	22
ローカル コンソールをセットアップする	23
PXE/RIS のセットアップ	24
RIS サーバをセットアップする	24
HP Integrity サーバで PXE をセットアップする	24
サーバハードウェアの準備	26
ブート ドライブをセットアップする	26
DVD/CD ドライブを検出する	26
ACPI フラグを Windows に設定する (セルベース サーバ専用)	27
セル ローカル メモリを 100% に設定する (セルベースのサーバのみ)	27

3. OS のインストール

ローカル コンソールからのインストール	30
EBSU を実行する	30
Windows Setup を実行する	33
サーバ設定を指定する	35
リモート コンソールからのインストール	36
EBSU を実行する	36
Windows Setup を実行する	39
プロダクト キーを入力する	41
PXE からインストールする	42
ローカル コンソールからの再インストール	44
システム イメージをロードする	44
サーバ設定を指定する	45

目次

リモート コンソールからの再インストール	46
システム イメージをロードする	46
サーバ設定を指定する	47
EFI シェルによる新しいブート ファイルの作成	49
ブート ファイルが正常に作成されたことを確認する	49
インストールの確認	50
ハードウェア ステータスをチェックする	50
新しいデバイス ドライバをインストールする	50
リモート デスクトップ接続をセットアップする	51

4. サーバの更新

システムの更新	54
Integrity Support Pack をインストールする	54
Web から更新をインストールする	54
HP サポート通知に登録する	54
Microsoft セキュリティ通知に登録する	55
Microsoft Windows Update に登録する	55
システムのリモート管理	56
Special Administration Console (SAC)	56

1 インストールのプランニング

HP IntegrityサーバにMicrosoft® Windows® Server 2003オペレーティング システム (64ビット バージョン) をインストールするには、OS インストール用のハードウェアを準備し、OS をロードして、最新の OS パッチでシステムを更新します。この章では、サーバのモデル、OS のエディション、OS の配布メディア、ネットワーク環境に基づくインストールのプランニングについて説明します。インストール プロセスについては、以下の章で説明します。

概要

インテル® Itanium® 2プロセッサを搭載したHP Integrityサーバファミリは、2プロセッサrx1620のようなエントリレベルサーバから、rx7620やrx8620のようなミッドレンジサーバ、さらに128プロセッサ搭載可能なSuperdomeのようなハイエンドサーバまで、すべてのサーバモデルでWindows Server 2003 (64ビット)をサポートしています。rx7620、rx8620、Superdomeのような一部のHP Integrityサーバは、HP Super-Scalable Processorチップセット (SX1000)を搭載し、セルと呼ばれる基本的なビルディングブロックから構成されています。これらのセルベースサーバは、単一のシステムとしてセットアップしたり、複数のパーティションに分割したりすることができます。ここで、各パーティションには専用のメモリ、プロセッサ、I/Oリソースが割り当てられます。各パーティションは、それぞれのOSイメージを実行できます。

注

このガイドでは、SP1が適用されたMicrosoft® Windows Server 2003のインストールについて説明します。SP1が適用されたWindows Server 2003をインストールする際は、このガイドの旧版を参照しないでください。また、SP1が適用されていないWindows Server 2003をインストールする際は、このガイドを参照しないでください。

Windows Server 2003オペレーティングシステムファミリには、共通の中核機能のほかに、機能と拡張性が異なる複数の製品エディションがあります。HP Integrityサーバは、以下のエディションをサポートしています。

- **Datacenter Edition**は、データベース、統合基幹業務システム (ERP)、大量のリアルタイム トランザクション処理、サーバ統合のようなミッション クリティカル アプリケーションを運用するサーバ向けに設計されています。このバージョンは、1つのパーティション内で最大64基のプロセッサをサポートします。また、1TBのメモリをサポートし、最大8ノードのクラスタを構成できます。
- **Enterprise Edition**は、ネットワーキング、メッセージング、インベントリ/顧客サービス システム、データベース、電子商取引 Web サイトのようなアプリケーションを運用する中規模企業と大規模企業のサーバ向けに推奨されています。このバージョンは、最大8基のプロセッサと 1TBのメモリをサポートし、最大8ノードのクラスタを構成できます。

表1-1に、HP Integrityサーバ モデルと各Windows Server 2003 OSエディションの対応関係を示します。

表1-1 **対応関係マトリクス**

モデル	Enterprise Edition	Datacenter Edition
rx1620	✓	
rx2600	✓	
rx2620	✓	
rx4640	✓	
rx5670	✓	
セル ベース サーバ		
rx7620	✓	✓
rx8620	✓	✓
Superdome		✓

インストール シナリオの選択

HP Integrityサーバを購入する際、追加ハードウェア、サポート オプション、OS対応化キット (HP Integrity Essentials Foundation Pack for Windowsなど) を注文することができます。また、OSのプリインストールを注文することもできます。注文の内容 (以後の使用方法) に応じて、システムは次のいずれかの状態にあります。

- **Windows Server 2003がプリインストール済み**

Windows Server 2003, Datacenter Editionは、常にプリインストールされます。システムを起動して実行するには、OSが正しくインストールされていることを確認し、システムをセットアップし、最新のIntegrity Essentials Foundation PackまたはHP IntegrityサーバのサポートWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/> (英語) から入手できる最新のファームウェア、ドライバ、Microsoft QFE (パッチおよびフィックス) を使用して、システムを更新します。

- **Windows Server 2003以外のOSがプリインストール済み**

プリインストール済みのOSの代わりにWindows Server 2003を使用したい場合は、エントリ レベルサーバではお客様ご自身が移行を実行します。ミッドレンジ サーバやハイエンド サーバではHPのカスタマー エンジニア (CE) に移行を依頼することができます。CEに移行を依頼するには、HPのサービス窓口またはHP製品販売店に連絡してください。

別のOSからWindows Server 2003に移行する場合は、サポートされているハードウェアの違いに注意してください。Windows Server 2003と互換性がないコンポーネントは、サポートされているコンポーネントと交換する必要があります。サーバのハードディスクに保存されているデータを使用したい場合は、データをバックアップし、他のサーバで復元できることを確認する必要があります。

以上で、インストール用のサーバ ハードウェアを準備できます。HP Smart SetupメディアとMicrosoft Windows Server 2003メディアを使用して、OSファイルをサーバにロードします。インストールが完了したら、システムをセットアップし、最新のIntegrity Essentials Foundation PackまたはHP Integrityサーバのサポート Web サイト <http://www.hp.com/support/itaniumservers/> (英語) から入手できる最新のファームウェア、ドライバ、Microsoft QFE (パッチおよびフィックス) を使用して、システムを更新します。

- **オペレーティング システムがインストールされていない**

インストール用のサーバ ハードウェアを準備します。HP Smart SetupメディアとMicrosoft Windows Server 2003メディアを使用して、サーバにOSファイルをロードします。インストールが完了したら、OSが正しくインストールされていることを確認し、システムを設定し、HP IntegrityサーバのサポートWebサイトまたは最新のIntegrity Essentials Foundation Packから入手できる最新のファームウェア、ドライバ、Microsoft QFE (パッチおよびフィックス) を使用して、システムを更新します。

- **インストール済みのWindows Server 2003が正しくない、または動作しない**

インストール用のサーバ ハードウェアを準備します。HP再インストール用メディアを使用して、サーバにOSファイル、ファームウェア、ドライバ、QFEを復元します。インストールが完了したら、OSが正しくインストールされていることを確認し、システムを設定し、HP IntegrityサーバのサポートWebサイトまたは最新のIntegrity Essentials Foundation Packから入手できる最新のファームウェア、ドライバ、Microsoft QFE (パッチおよびフィックス) を使用して、システムを更新します。

インストール環境の選択

インストール環境は、サーバ モデル、OSエディション、ローカル コンソールまたはリモート コンソール、インストールの実行に必要なメディアから構成されます。Smart SetupメディアおよびMicrosoft RTMメディアまたは再インストール用メディアからのインストールに加えて、ネットワーク上のRIS (Remote Installation Service) サーバおよびHP Integrityサーバ上のPXE (Pre-boot eXecution Environment) クライアントを使用して、Windows Server 2003のインストールを自動化できます。

表1-2に、HP Integrityサーバ モデル、サポートされているOSエディション、コンソール オプション、関連メディアを示します。

表1-2 インストールのマトリクス

サーバ	OSエディション	コンソール	メディア
rx1620 rx2600 rx2620 rx4640 rx5670	Enterprise	ローカル	HP Smart Setupおよび Microsoft RTM
			HP再インストール用
		リモート (ヘッドレス サーバ)	HP Smart Setupおよび Microsoft RTM
			HP再インストール用
		PXE/RIS	
		セル ベース サーバ	
rx7620 rx8620	Enterprise	ローカル	HP Smart Setupおよび Microsoft RTM
			HP再インストール用
		リモート (ヘッドレス サーバ)	HP Smart Setupおよび Microsoft RTM
			HP再インストール用
		PXE/RIS	
	Datacenter (プリインストール済み)	ローカル	HP再インストール用
リモート (ヘッドレス サーバ)		HP再インストール用	
Superdome	Datacenter (プリインストール済み)	ローカル	HP再インストール用
		リモート (ヘッドレス サーバ)	HP再インストール用

ローカル コンソールの使用

ローカル コンソールは、サーバに接続されているVGAモニタ、USBキーボード、USBマウスです(USB-PS2ドングルを使用して、コンソール スイッチに接続することもできます)。

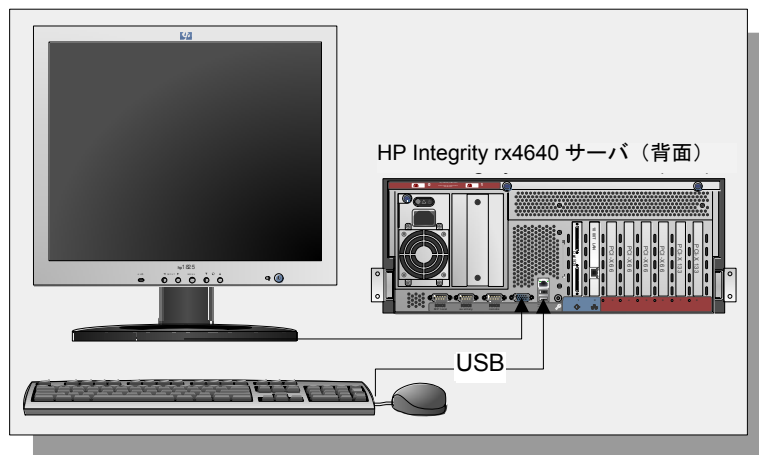
注

VGAカードが取り付けられていない場合は、ローカル コンソールを使用するために、HP製グラフィックスおよびUSBコンボ アダプタ(A6869A)を取り付ける必要があります。HP Integrityサーバは、他のグラフィックス カードをサポートしていません。また、HPキーボードのみが、VGAカードに対応しています。

図1-1に、HP Integrity rx4640サーバに接続されているローカル コンソールを示します。

図1-1

ローカル コンソール構成



ローカル コンソールは、サーバで実行できるすべてのインストール作業と管理作業への完全なアクセスを提供します。ローカル コンソールを使用すると、インストール用のサーバの準備、OSのインストール、インストールにおけるサーバのステータスのチェックを行うことができます。

インストールを実行するために、ローカル コンソールを使用すると、次の作業を行うことができます。

- インストール時にサーバ設定を指定できる。
- インストールの完了後、ただちにWindowsにログオンできる。
- 任意の管理タスクを直接実行できる。

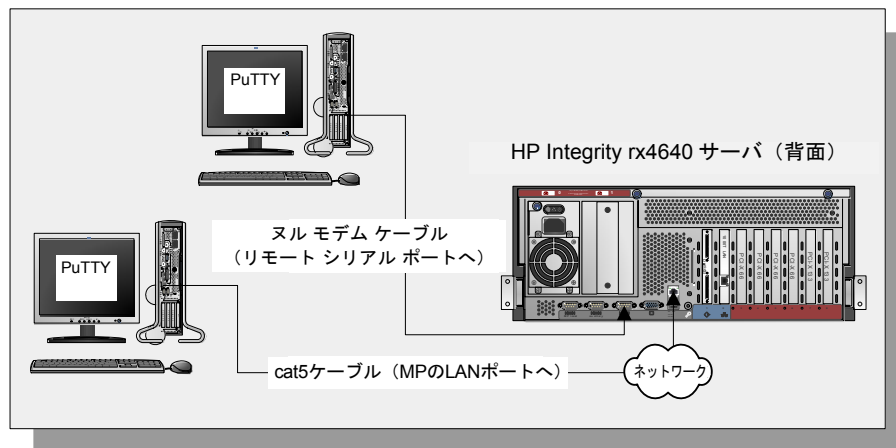
リモート コンソールの使用

リモート コンソールは、MP(管理プロセッサ)のシリアルポートまたはLANポート経由でサーバに接続され、**PuTTY**(Smart SetupメディアまたはWebからインストール可能)や**HyperTerminal**のような端末エミュレーションソフトウェアが稼動するPCです。

注 ターミナルエミュレータ「PuTTY.exe」は、標準では日本語をサポートしていません。

図1-2に、HP Integrity rx4640サーバに接続されているリモート コンソールを示します。

図1-2 リモート コンソール構成



リモート コンソールを使用して、Windowsをインストールする際は、次の点に注意してください。

- インストール時にオペレーティング システム設定を指定できない。
- MPのLANポートを使用する場合は、MPのLANインタフェースにIPアドレスを割り当てる必要がある。IPアドレスを割り当てるには、MPのシリアルポートにワークステーションを接続し、MPコマンドメニューにアクセスし、LANアクセスを有効にし、LANパスワードを指定する必要があります。

PXE/RISの使用

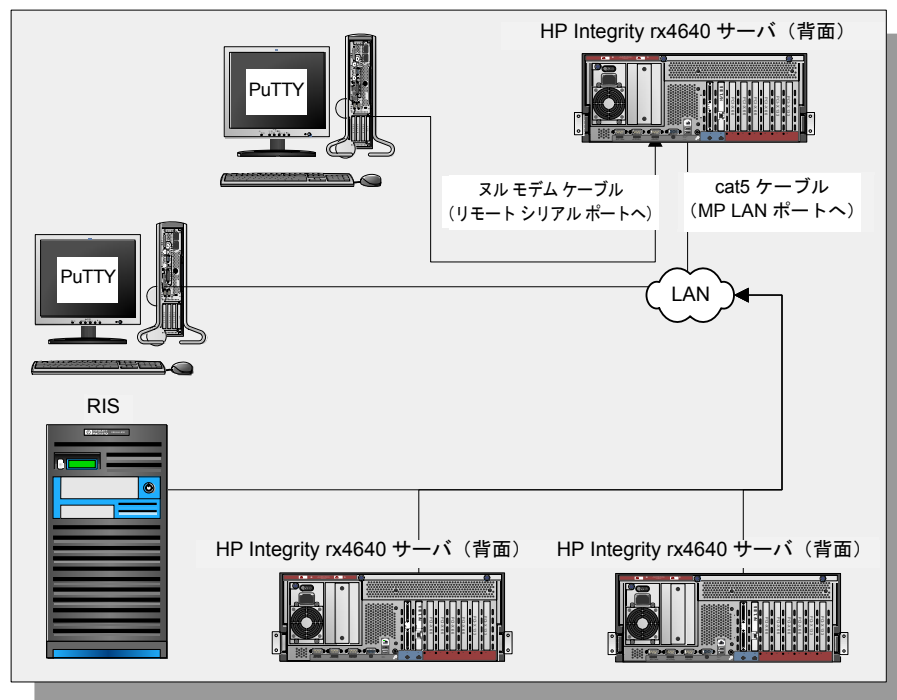
RIS(Remote Installation Services)サーバは、ネットワーク全体にわたる複数のソフトウェア インストールを実行するための Windows サーバです。RIS サーバは、対象システムに存在するエージェント(PXEクライアント)とともに、自動化されたインストールを実行します。このリモートインストール方法を使用すると、ユーザは次の利点を得られます。

- インストールが自動化され、ユーザが介入する必要がない。
- 1回のバッチ ジョブで複数のサーバをインストールできる。
- 各サーバが同じイメージを受信する。
- イン트라ネットのどこからでもインストールを実行できる。

図1-3に、PXE/RIS構成の例を示します。

図1-3

PXE/RIS構成



注

PXE/RISリモート インストールを実行する際は、次の点に注意してください。

- PXE/RISを使用したリモート インストールは、Windows Server 2003, Datacenter editionでサポートされていない。
- Windows OSを初めてインストールする際は、イントラネットを使用して、RISサーバをIntegrityサーバに接続しないでください。RISサーバ、ハブ、HP IntegrityサーバのシステムLAN NICからなる小型の「プライベート」ネットワークをセットアップしてください。これにより、Windows のインストール中に発生する可能性があるエラーから、イントラネットが保護されます。Windows OSのインストールが完了したら、イントラネットを使用して、対象のIntegrityサーバにRISを接続してください。

HP Smart Setupメディアの使用

HP Integrity Essentials Foundation Pack for Windowsには、Smart Setupメディアが含まれています。HP Smart Setupメディアは、OSをインストールする前と後で使用できます。

- **OSをインストールする前に**、CD/DVDドライブにSmart Setupメディアを挿入して、サーバをブートします。サーバは、**EFI-Based Setup Utility (EBSU)**からブートします。EBSUは、ハードディスクのパーティション作成およびファームウェアの更新のようなオフライン セットアップならびに設定作業の使いやすいインタフェースを提供します。さらに、EBSUは、OSインストール プロセスを手順に従って説明する**Express Setupユーティリティ**を提供しています。EBSUは、OSイメージが収録されているMicrosoft RTMメディアと連携して動作します。OSをインストールする場合は、EBSUの使用を強くおすすめします。
- **OSをインストールした後で**、Smart Setupメディアを使用して、ドライバ、ユーティリティ、(システムの安定性と性能を保証する)重要なフィックスをインストールします。

これらのユーティリティは、単独またはグループとしてアクセスしたり、インストールしたりすることができます。Smart Setupメディアを開き、対象のサーバ モデルを選択すると、適切なユーティリティが表示されます。

Microsoft RTMメディアの使用

Microsoft RTMメディアは、HP Integrity Essentials Foundation Pack for WindowsとともにHPから購入したり、Windows販売店から別々に購入したりすることができます。また、Windows Server 2003 (64ビットバージョン)のボリューム ライセンスを利用できます。(Windowsがプリインストールされていない場合)HP IntegrityサーバにWindows Server 2003をインストールするには、このメディアとライセンス キーが必要です。

サーバに関係なく、OSは、HP Smart Setupメディアに収録されているEFI-Based Setup Utility (EBSU)を使用して、簡単にインストールできます。EBSUにアクセスするには、HP Smart Setupメディアからサーバを起動してください。起動するだけで、EBSUが自動的にロードされます。

HP再インストール用メディアの使用

Windows Server 2003がプリインストールされたHP Integrityサーバには、必要に応じてサーバをデフォルト設定に復元できるHP再インストール用メディアが付属しています。Windows Server 2003を再インストールするには、対応するライセンス キーが必要です。

EFIの使用

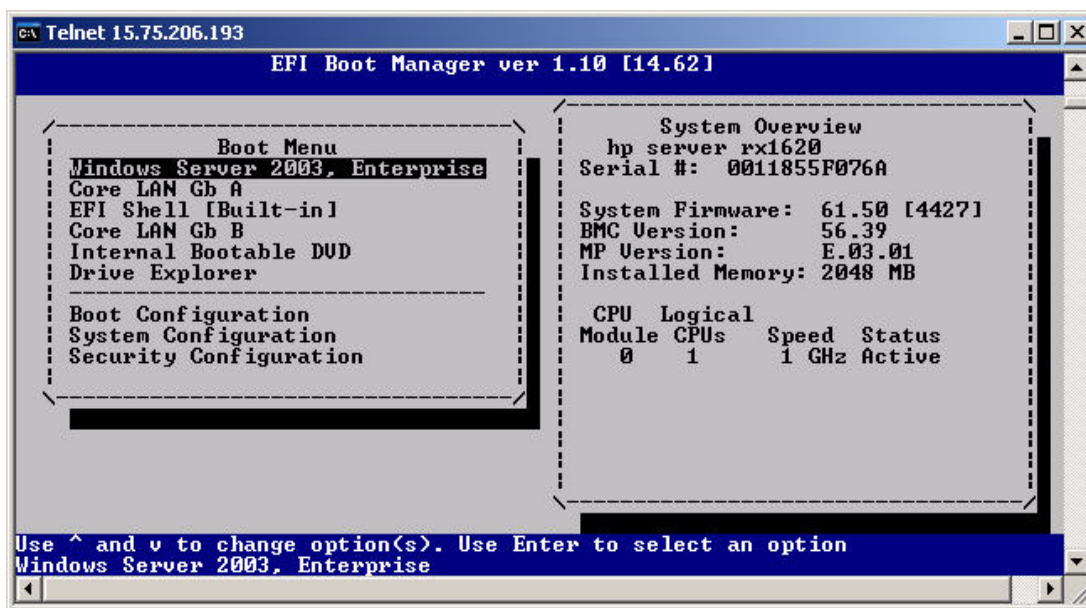
Intel® Extensible Firmware Interface (EFI) 仕様は、オペレーティング システム、ファームウェア、ハードウェア間の新しいインタフェース モデルを定義しています。EFIは、x86ベース コンピュータのBIOSと同じ機能をItaniumベース コンピュータに提供します。EFIは、プリブート アプリケーションを実行したり、OSをブートするための標準環境を提供したりします。

HP Integrityサーバは、EFIを使用して、プラットフォーム ファームウェアを初期化し、オペレーティング システムをロードします。システムが初期化されると、EFIは、以下を使用するための2つのインタフェースを提供します。

EFIブートマネージャ

EFIブートマネージャは、サーバの電源を入ると最初に表示され、(矢印キーを使用してメニュー オプションを選択できる)メニュー ベースのインタフェースを提供します。EFIブートマネージャには、OSのブート、EFIアプリケーションのロード、サーバの設定、他のプリブート処理などのメニュー オプションがあります。

図1-4 EFIブートマネージャ



EFIシェル

EFIシェルは、EFIブートマネージャから選択でき、システム情報の収集、OSのインストール、OSのブート、バッチ スクリプトの実行、EFIアプリケーションの起動、EFIドライバのロード、ファイルとシステム変数の管理用のコマンド ライン インタフェースを提供します。

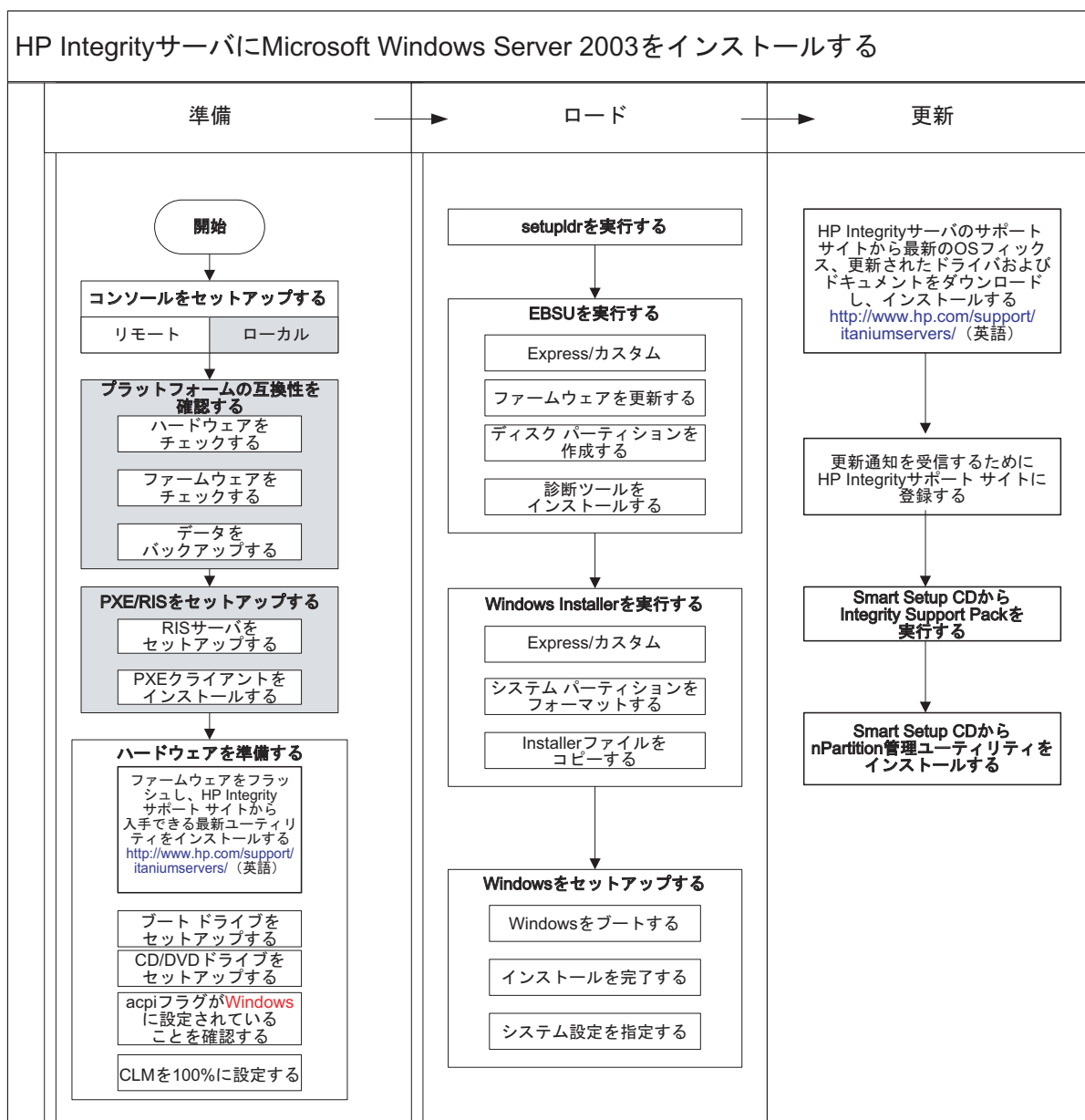
関連項目

- EFIドキュメント: <http://developer.intel.com/technology/efi/help/efidocs.htm>
- EFIシェル コマンド: EFIシェルから、EFIシェル コマンドのリストのEFIプロンプトで、**help**または?とタイプする

インストール プロセス

インストール プロセスは、OS用のサーバの準備、サーバへのOSのロード、および最新のファームウェア、ドライバ、ユーティリティ、セキュリティ フィックス、OSフィックスによるシステムの更新から構成されます。図1-5に、各段階の主な作業を示します。

図1-5 インストールの概要



実際には、コンソールとインストール メディアの選択に応じて、作業の順序やインタフェースに多少の違いがあります。上記の作業を実行する前に、以下の章に記載されている詳細な作業手順を参照し、作業に関連する警告や注意をよくお読みください。

2 インストールの準備

オペレーティング システムのインストール用のサーバを準備するには、コンソール(ローカル、リモート、またはその両方)をセットアップし、該当する場合、オプションでPXE/RIS環境をセットアップし、インストール用のハードウェアを準備します。別のOSから移行する場合は、インストールする前に、サーバプラットフォームと周辺装置カードがWindows Server 2003と互換性があることを確認する必要もあります。この章では、各作業の詳細な手順について説明します。

Microsoftの証明書を確認する

証明書には、Microsoft Windows Server 2003用CDキーが記載されています。このキーをOSのインストールを行う際に入力する必要があります。証明書(COA)の貼付位置は、サーバモデルによって異なります。

表2-1 MicrosoftのCOAを確認する



Integrityサーバ	位置
rx1600およびrx1620	<p>次の図に示すように、COAは電源スイッチの近くの引き出しラベルにあります。</p> 
rx2620	<p>次の図に示すように、COAはハードディスクドライブに隣接するシステムの正面部分の引き出しラベルにあります。</p> <div><p>MicrosoftのCOAラベルは、Windowsオペレーティングシステムをインストールした装置に付属しており、ボタンで留められています。</p><p>ラック- (ラベルの左側に COAラベルが あります)</p></div>

表2-1 MicrosoftのCOAを確認する(続き)

Integrityサーバ	位置
rx4640	<p>COAは、次の図に示すように、右サイド パネルの左側にあります。</p> <div></div>
rx5670	<p>COAは、図に示すように、ハードディスク ドライブの真下ににあります。</p> <div></div>
rx7620	<p>COAは、左側の図に示すように、UUIDラベルの横のライト パネルにあります。COAを追加する場合は、右側の図に示す位置に貼付してください。</p> <div></div>

表2-1 MicrosoftのCOAを確認する(続き)

Integrityサーバ	位置
rx8620	<p>COAは、左側の図に示すように、パワー サプライの近くの下部にあります。COAを追加する場合は、右側の図に示す位置に貼付してください。</p> <div></div>
Superdome	<p>COAは、図に示すように、セルとIOX間のオープン スペースの左側にあるユニットの内部にあります。</p> <div></div>

プラットフォームの互換性の確認

別のオペレーティング システムからWindows Server 2003に移行する場合は、ファームウェアが最新であること、ハードウェアの互換性があること、サーバ ディスクのデータがバックアップされていることを確認します。

システムのファームウェア バージョンをチェックする

システムのファームウェア バージョンをチェックするには、EFIからサーバをブートしてから以下の手順に従ってください。

手順1. 下矢印キーを使用して、EFIを選択します。**Enter**キーを押します。

手順2. EFIシェル プロンプトに、`info fw`とタイプします。

```
FIRMWARE INFORMATION
Firmware Revision:
All CELLS - 1.12 Thu Oct 16 08:10:32 2003
```

手順3. インストールされているバージョンとHP Smart SetupメディアまたはHP Integrityサポート サイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/> (英語) に存在するバージョンを比較します。

注

rx7620、rx8620、および Superdome サーバの場合は、最新のファームウェアを入手するために、HP のサービス窓口またはHPのCEに連絡してください。

ハードウェアの互換性をチェックする

既存のハードウェアがWindows Server 2003と互換性があることを確認するには、以下の手順に従ってください。

手順1. 各サーバの付属品およびアクセサリ ページを参照して、サポートされているハードウェア構成をチェックします。たとえば、rx8620サーバの付属品およびアクセサリ ページhttp://www.hp.com/products1/servers/integrity/mid_range/rx8620/supplies.html (英語) には、rx8620 サーバに使用できるプロセッサ、メモリ、アダプタ、カード、コントローラが掲載されています。

手順2. HP Integrityサーバの接続サイト<http://www.hp.com/products1/serverconnectivity/index.html> (英語) で、既存デバイスの互換性を確認します。

手順3. HP Integrityサーバのストレージ サポート対応表http://www.hp.com/products1/serverconnectivity/support_matrices.html (英語) を参照して、ストレージの互換性を確認します。ストレージ ベンダが、記載されていない構成をサポートしている場合があるため、このサポート対応表は完全ではありません。このため、原則として、ストレージ ベンダとHP製品販売店にサーバとストレージの互換性を確認してください。

既存のデータをバックアップする

Windows に移行した後で、サーバのハードディスク上のデータを復元したい場合は、データをバックアップし、後で復元できることを確認する必要があります。

手順1. 既存のバックアップ ユーティリティを使用して、サーバ全体のバックアップを実行します。

手順2. 一部のデータを別のサーバに復元して、バックアップの整合性を確認します。

手順3. バックアップを安全な場所に保管します。

コンソールのセットアップ

ローカル コンソール、リモート コンソール、またはその両方から、オペレーティング システムをインストールし、サーバを管理することができます。

- リモート コンソールは、MPのシリアル ポートまたはLANポート経由でサーバに接続され、**PuTTY** や**HyperTerminal**のような端末エミュレーション ソフトウェアが稼動する端末またはPCです。リモート コンソールは、EFIシェル、MPコマンドへのアクセスを提供し、Windowsのブート後は、Special Administration Console (SAC) へのアクセスを提供します。
- ローカル コンソールは、サーバに接続されているVGAモニタ、USBキーボード、USBマウスです。VGAカードが取り付けられていない場合は、ローカル コンソールを使用するために、HP製グラフィックスおよびUSBコンボ アダプタ (A6869A) を取り付けする必要があります。ローカル コンソールは、EFI、MPコマンド、(Windowsのブート後) Windowsユーザ インタフェースを使用できるグラフィカル ユーザ インタフェースを提供します。

リモート コンソールをセットアップする

リモート コンソールからは、EFIシェル、MP、Microsoft Special Administration Console (SAC) にアクセスできます。HP IntegrityサーバにWindows Server 2003をインストールしたり、インストールした環境を管理したりする際に、これらのユーティリティを使用できます。

リモート コンソールは、2つの方法で構成できます。

- スル モデム ケーブルを使用して、MPポートにPCを接続する。
- cat5 LANケーブルを使用して、LANポートにPCを接続する。

リモートPCで、HyperTerminalやPuTTYのような端末エミュレーション アプリケーションを実行します。PuTTYは、32ビットWindowsとUNIX用のTelnetおよびSSHにおいて無料で実装されており、xterm端末エミュレータを提供しています。Smart SetupメディアまたはPuTTYのWebサイト<http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/download.html>から入手できる、PuTTYバージョン0.55以上を実行することをおすすめします。

リモート コンソールをセットアップするには、以下の手順に従ってください。

手順1. スル モデム ケーブルを使用してMPシリアル ポートにPCを接続するか、cat5ケーブルを使用してLANポートにPCを接続します。

手順2. PCにPuTTYをインストールし、次のようにポートを設定します。

- ビット/秒:9600
- データ ビット:8
- パリティ:なし
- ストップ ビット:1
- フロー制御:Xon/Xoff

手順3. Keyboard Configuration Panelを使用して、バックスペース文字を**Ctrl+H**キーにマップします。

手順4. サーバをブートします。

手順5. PuTTYを実行し、**Enter**キーを押します。

MPプロンプトが表示されます。

ローカル コンソールをセットアップする

内蔵グラフィックス カードを搭載しているサーバでは、該当するポートに、モニタ、キーボード、マウスを直接接続できます。内蔵グラフィックス カードを搭載していないサーバでは、HP製グラフィックスおよびUSBコンボ カード(A6869A)を取り付けてから、該当するポートにコンソールを接続する必要があります。次に、既存のリモート コンソールから、出力がローカル コンソールに向かうようにシステム構成を変更します。

表2-2

サーバ モデルのグラフィックス サポート

サーバ モデル	グラフィックス カード
rx1600、rx2600、rx4640	内蔵グラフィックス カード
rx5670、rx7620、rx8620、 Superdome	(オプション)HP製グラフィックスおよびUSBコンボ カード (A6869A)

HP製グラフィックスおよびUSBコンボ カードを取り付けるには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. サーバの未使用PCIスロットに、HP製グラフィックスおよびUSBコンボ カードを取り付けます。
- 手順2. 該当するポートに、VGAモニタ、USBキーボード、USBマウスを接続します。
- 手順3. EFIからサーバをブートします。
- 手順4. リモート コンソールのEFIブートマネージャの[Boot Menu]から[System Configuration]を選択します。
- 手順5. [Select Active Console Output Devices]を選択します。
- 手順6. グラフィックス カードPCIデバイスの行を強調表示します。

 行の先頭にアスタリスクがない場合、デバイスは無効です。スペース バーを使用して、カードの状態を無効から有効に切り替えます(有効になるとアスタリスクが表示されます)。
- 手順7. [Save Settings to NVRAM]を選択してシステムへ設定の変更を保存します。[Exit]でコンソールの出力デバイスの設定を終了します。
 以上で、ローカル コンソールへシステム構成が変更されます。

PXE/RISのセットアップ

RIS (Remote Installation Services) を使用すると、ユーザの一定の操作で、複数のリモート システムに、同一の OS とソフトウェア構成を作成、保守したり、迅速にインストールしたりすることができます。RIS は、PXE (Pre-boot eXecution Environment) を使用して、RIS サーバからオペレーティングシステムをリモートブートせずに、クライアント コンピュータを有効にします。次に、RIS サーバは、TCP/IP ネットワーク接続経由でオペレーティング システムをインストールします。クライアント コンピュータのグループごとに、異なる RIS イメージを作成することができます。また、[Group Policy] 設定を使用して、RIS がクライアントに提供するインストール オプションを制限することができます。さらに、手作業によるインストールまたは完全に自動化されたインストール用に、RIS を設定することができます。

RIS サーバをセットアップする

ネットワークに 1 台または複数の RIS サーバをセットアップするには、プランニング、設計、実装の際に注意が必要です。RIS サーバをセットアップする際は、以下のチェックリストに従ってください。

- RIS サーバとクライアント (Integrity サーバ) のハードウェアが、RIS (Remote Installation Services) のハードウェア要件に適合していることを確認します。
- ネットワークが TCP/IP を使用し、ネットワークにドメイン ネーム システム (DNS) サーバが存在することを確認します。Microsoft バージョンの DNS を使用する必要はありません。
- ネットワークに DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバが存在することを確認します。Microsoft バージョンの DHCP を使用する必要はありません。
- ネットワークに Active Directory が存在することを確認します。
- RIS サーバに Remote Installation Services コンポーネントをインストールします。
- Remote Installation Services セットアップ ウィザードを実行します。

関連項目

RIS サーバのセットアップに関するコンセプト、作業、ベスト プラクティス、トラブルシューティングについて詳しくは、Microsoft Windows Server 2003 テクニカル リファレンスの Web サイト <http://www.microsoft.com/windowsserver2003/proddoc/default.mspx> を参照してください。

HP Integrity サーバで PXE をセットアップする

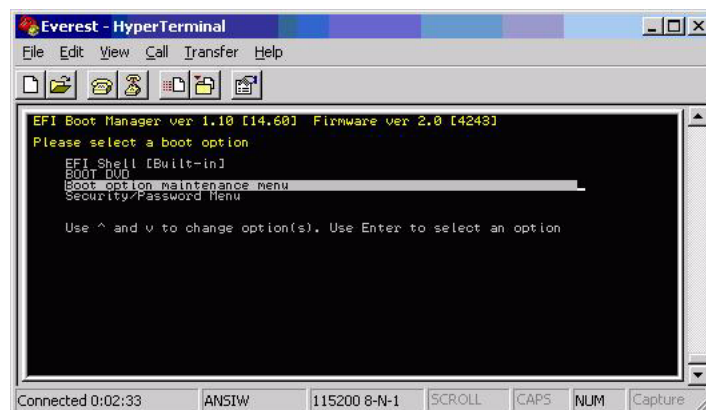
PXE は、TCP/IP、DHCP、TFTP のような共通のインターネット プロトコルとサービスに基づいています。DHCP プロトコルの PXE 拡張により、RIS サーバは、ネットワーク経由でブート可能な HP Integrity サーバと通信できます。

HP Integrity サーバの PXE を有効にするには、RIS サーバと通信するために使用するネットワーク インタフェース カード (NIC) を指定する必要があります。指定した NIC からブートする HP Integrity サーバは、実質的にリモート RIS サーバからブートすることになります。PXE と RIS サーバがともに動作して、HP Integrity サーバに Windows Server 2003 の新しいイメージをインストールします。

HP Integrity サーバの PXE を有効にするには、以下の手順に従ってください。

手順1. EFI ブートマネージャから、[EFI Boot option maintenance menu] を選択します。

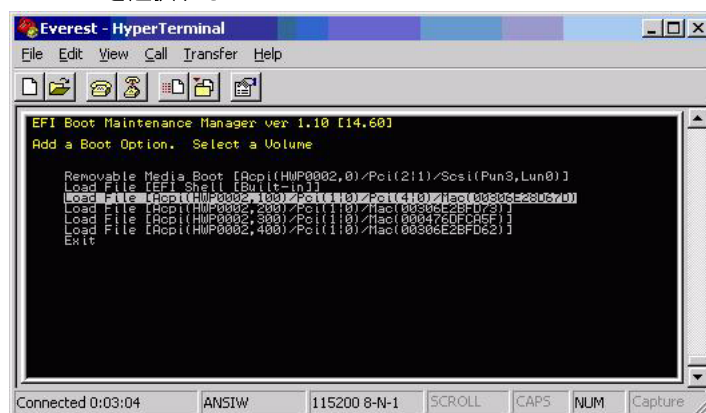
図2-1 EFIのブートオプションメニュー



手順2. [Add a Boot Option]を選択します。

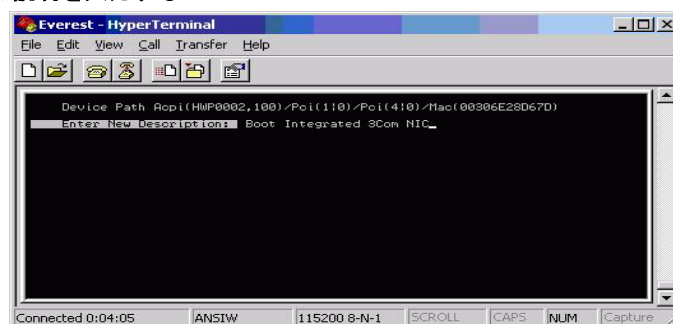
手順3. サポートされているブートコントローラのリストから、NICを選択します。

図2-2 PXE Boot NICを選択する



手順4. NICの説明を入力します。

図2-3 NICの説明を入力する



手順5. Enterキーを押して、デフォルト オプションを選択します。

手順6. Yesと入力して、設定を保存します。

サーバハードウェアの準備

OSインストール用のサーバハードウェアをセットアップするには、ブートドライブをセットアップし、CD/DVDドライブをセットアップします。セルベースサーバの場合、ACPIブートオプションがWindowsに設定されていることを確認します。

ブートドライブをセットアップする

adapter zeroとして検出されたブートコントローラを通じて、drive zeroとして検出されたドライブに、オペレーティングシステムがインストールされます。

注意

インストール時には、ターゲットOSドライブだけを接続することをおすすめします。これにより、OSが適切なドライブに確実にインストールされます。Z:ドライブ文字が使用されていないことを確認してください。SP1が適用されたWindows Server 2003は、この時点で、EFIパーティションを作成します。

ブートドライブをセットアップするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. サーバの電源を切ります。
- 手順2. インストールの完了後に再接続できるように、すべてのデバイス接続を書き留めます。
- 手順3. ブートコントローラを除くすべてのコントローラから、すべての大容量記憶装置との接続を切断します。
- 手順4. ブートコントローラとブートドライブを構成します。

注

RAIDコントローラを使用している場合は、RAIDコントローラのマニュアルの説明に従って、コントローラを準備し、RAIDタイプを選択してください。

アプリケーションノートを参照してください。

DVD/CDドライブを検出する

システムをEFIからブートした後で、ハードウェア（たとえば、ハードディスクドライブ、USBデバイス、DVD-ROMドライブ）を追加する場合、EFIシェル環境は新しいデバイスを自動的に検出しません。EFIシェルがデバイスを認識するには、デバイスドライバを再接続する必要があります。

また、EFIシェル環境は、認識されたファイルシステムをサポートするすべてのデバイスハンドルのデフォルトマッピングを作成します。システム構成を変更したり、新しいデバイスを追加したりした後は、このマッピングを再生成する必要があります。

EFIシェルがDVD/CDドライブを検出し、DVD/CDドライブにアクセスできるようにするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. EFIブートマネージャで、EFIシェルを選択します。reconnect -rとタイプします。
reconnect コマンドは、すべてのデバイスからすべてのドライバを切断し、再接続して、デバイスから1つまたは複数のドライバを再接続します。デバイスハンドルの指定しないと、システムのすべてのハンドルに対して、再接続処理が実行されます。デバイスハンドルの指定すると、そのデバイスハンドルとそれより下層にあるデバイスだけが再接続されます。EFIシェルから、reconnect -rとタイプします。
- 手順2. EFIブートマネージャで、EFIシェルを選択します。map -rとタイプします。
-rオプションは、システムのすべてのマッピングを再生成します。次のようなデバイスマッピングテーブルが表示されます。

```
fs0 : Acpi (PNP0A03,0) /Pci (2|0) /Ata (Primary,Master) /CDROM (Entry1)
blk0 : Acpi (PNP0A03,1) /Pci (1|0) /Scsi (Pun0,Lun0)
blk1 : Acpi (PNP0A03,0) /Pci (2|0) /Ata (Primary,Master)
blk2 : Acpi (PNP0A03,0) /Pci (2|0) /Ata (Primary,Master) /CDROM (Entry1)
```

手順3. CD-ROMデバイス (fs0) のデバイス名に注意してください。デバイス名を使用してCDまたはDVDの内容をチェックします。

関連項目

mapコマンドは、ユーザ定義名とデバイス ハンドルのマッピングを表示または定義します。一般に、このコマンドは、ファイル システム プロトコルをサポートするデバイス ハンドルにドライブ文字を割り当てるために使用します。このマッピングが作成されると、すべてのファイル処理コマンドにドライブ文字を使用できます。

map コマンドを使用すると、新しいマッピングを作成したり、-dオプションで既存のマッピングを削除したりすることができます。map コマンドをパラメータなしで使用すると、すべての現在のマッピングが表示されます。-vオプションを使用すると、マッピングされた各ハンドルの追加情報も表示されます。

ACPIフラグをWindowsに設定する(セル ベース サーバ専用)

rx7620、rx8620、Superdomeのようなセル ベース サーバでは、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) フラグを、ブートするオペレーティング システムに適したフラグに設定する必要があります。サーバをWindows Server 2003からブートする場合は、ACPIフラグを**windows**に設定する必要があります。

Windowsオペレーティング システム オプション (Microsoft社製市販メディアまたはHP Smart Setupメディア) 付きのサーバを購入した場合は、このフラグはすでに**windows**に設定されています。別のオペレーティング システムが付属またはオペレーティング システムなしのサーバを購入した場合は、このフラグを**windows**に設定する必要があります。

注意

ACPIフラグを**windows**に設定しないで、サーバをWindows Server 2003からブートすると、ブルー スクリーンエラーになります。

ACPIフラグを設定するには、以下の手順に従ってください。

手順1. EFIブートマネージャで、EFIシェルを選択します。acpiconfigとタイプします。

現在の ACPI 設定が表示されます。フラグが **windows** に設定されている場合、acpiconfig:windows と表示されます。

手順2. フラグが**windows**に設定されていない場合、acpiconfig windowsとタイプします。

手順3. acpiconfigとタイプして、設定を再表示し、フラグが正しく設定されていることを確認します。

Windows Server 2003は、バージョン2.0の一部の拡張機能を追加したACPI 1.0b仕様を実装しています。HP-UXとLinuxは、ACPI 2.0を実装しています。そのため、ブートされるオペレーティング システムがWindows Server 2003であることを示すために、このフラグでファームウェアに通知する必要があります。

注

システム ファームウェアを更新すると、このフラグが**default**にリセットされる場合があります。システム ファームウェアをフラッシュした後は、このフラグが**windows**に設定されていることを確認してください。

セル ローカル メモリを100%に設定する(セルベースのサーバのみ)

サーバの性能を最大限に発揮するには、セル ローカル メモリ (CLM) パラメータを100%に設定することをおすすめします。パラメータを 100% に設定すると、ローカルセルのみに使用する、利用可能なすべてのローカルセル RAM を割り当て、サーバのバックプレーンにアクセスする物理 RAM に対して、必要のないRAMの読み取りおよび書き込みを防ぎます。

nPartitionコマンド管理ツール(parmodify)を使用して、各nPartitionに対してCLMの設定を変更します。変更するサーバまたはリモートの管理ステーションに、nPartitionを最初にインストールする必要があります。これらのツールのインストール方法について詳しくは、nPartitionガイドを参照してください。

CLMパラメータを設定するには、以下の手順に従ってください。

手順1. コマンド行からparmodify -p# -m#...コマンドを実行して、-m オプションの一部として新しい属性値を指定し、セルの属性を変更します。

```
parmodify -p0 m0:::100%
```

-pオプションでnPartitionsを指定し、-mオプションでセルを指定します。

以上でセル0、パーティション0のセル ローカル メモリを100%に設定できます。

手順2. セルの新しい属性値が適用されるようにnPartitionsをリブートします。

3 OSのインストール

この章では、ローカル コンソール、リモート コンソール、またはPXE対応NICを使用して、OSをインストールする手順について説明します。また、Windows Server 2003を再インストールする方法についても説明します。どの方法にも複数の作業があります。この章の最後で、OSが正しくインストールされていることを確認する2つの作業について説明します。OSをインストールした後は、HP Support Packをインストールしてください。

ローカル コンソールからのインストール

この作業では、EBSUを使用してサーバを準備し、Windows Setupを使用してOSを準備します。その後、サーバにOSをロードして、システム設定を指定します。

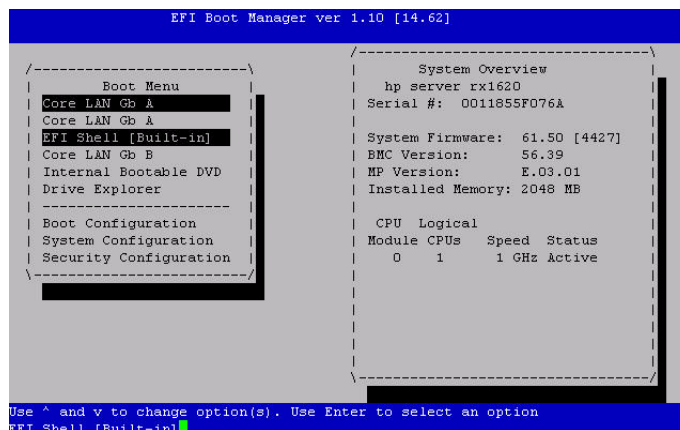
EBSUを実行する

EBSU は、ファームウェアをフラッシュし、ハードディスク上に専用のパーティションを作成します。その後、HPの診断ツールをインストールすると、ストレージ コントローラの構成や、他のEFIユーティリティを実行するために使いやすいインタフェースが提供されます。

手順1. サーバの電源を入れます。サーバがEFIからブートします。

図3-1

EFIからブートする



手順2. サーバのDVDドライブに、HP Smart Setupメディアをロードします。

手順3. EFIの[Boot Menu]から、[Internal Bootable DVD]を選択し、**Enter**キーを押します。

手順4. EBSUが起動し、[Welcome]画面が表示されます。[OK]を選択し、**Enter**キーを押して続行します。

図3-2

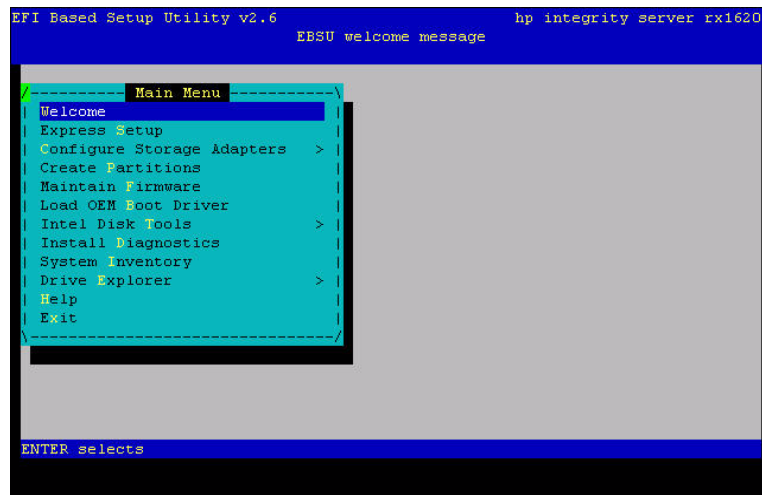
EBSUに入る



手順5. メインメニューから、[Express Setup]を選択し、**Enter**キーを押します。

図3-3

[Express Setup]を選択する

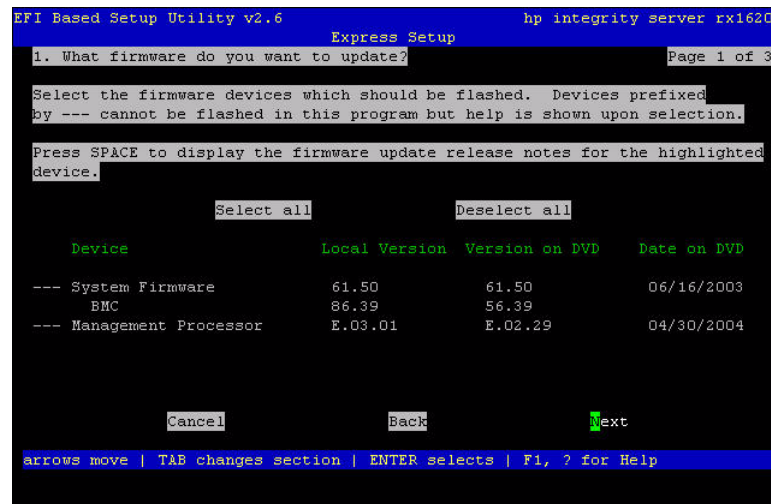


手順6. Express Setupの開始画面が表示されます。[Next]を選択します。

手順7. 各デバイス、インストールされているファームウェアバージョン、Smart Setupメディア上のファームウェアバージョンをリストするファームウェア更新画面が表示されます。ファームウェアを更新したいデバイスを選択します。[Next]を選択し、**Enter**キーを押して続行します。

図3-4

ファームウェアを更新する



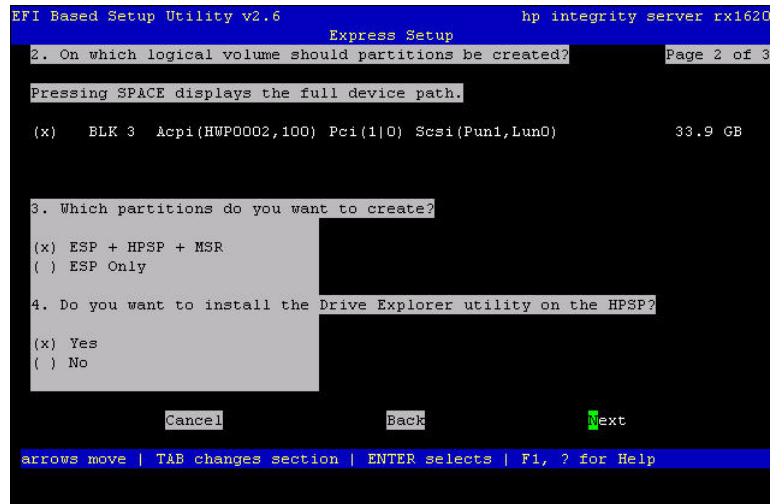
注

EBSUを使用しても、デバイスのファームウェアをフラッシュできない場合があります。インストールされているバージョンが、Smart Setupメディア上にあるバージョン以上の場合は、ファームウェアをフラッシュできません。また、EBSUを使用しても、MPのファームウェアはフラッシュできません。HP Integrityサポート サイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/> (英語) から、最新のMPファームウェアをダウンロードし、別々にフラッシュする必要があります。

手順8. 作成したいディスク パーティションを指定します(**ESP専用**または**ESP+HPSP+MSR**)。サーバのメンテナンスを簡素化する手段として、デフォルトのESP+HPSP+MSRをおすすめします。また、EFIでドライブを参照できるように、Drive Explorerユーティリティをインストールするオプションを指定します。**[Yes]**を選択します。**[Next]**を選択し、**Enter**キーを押します。

図3-5

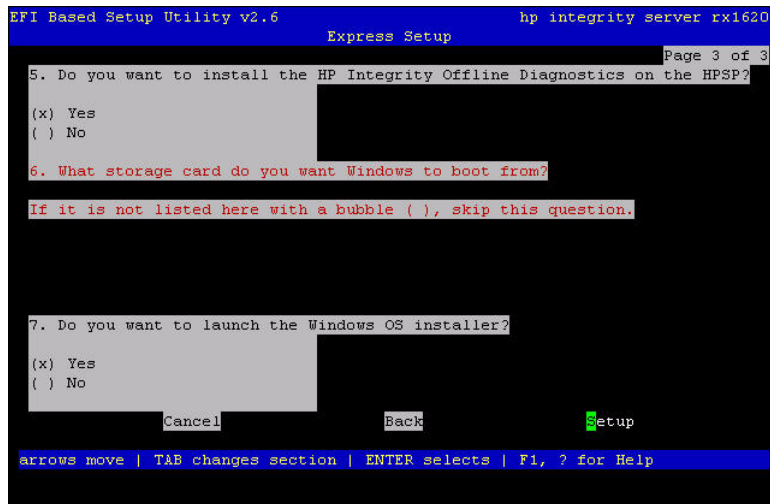
ディスク パーティションを作成する



手順9. (HP Itanium Processor Family offline diagnostics and utilities CDから)オフライン診断ツールをインストールするオプションを指定します。**[Yes]**を選択します。また、Windows OSのインストーラを起動するオプションを指定します。**[Yes]**を選択します。**[Setup]**を選択し、**Enter**キーを押します。**[Yes]**を選択します。

図3-6

診断ツールをインストールする

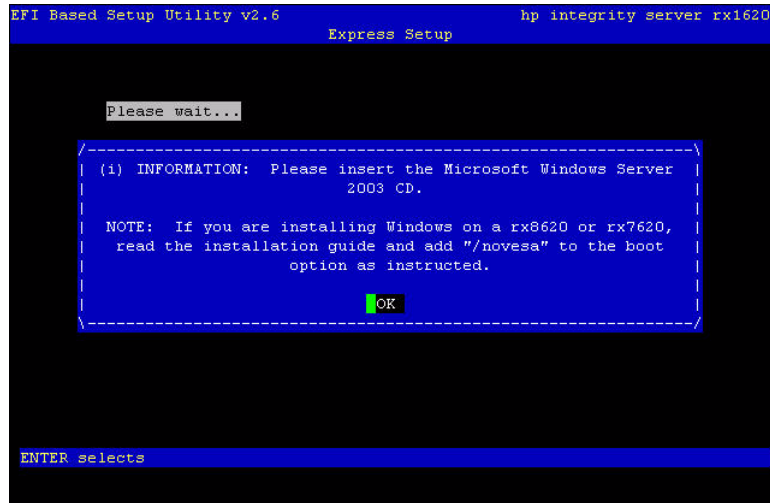


手順10. パーティション確認ウィンドウが表示されます。**[Continue]**を選択し、**Enter**キーを押します。

手順11. DVDドライブに、Microsoft Windows Server 2003 CDの挿入を指示するメッセージが表示されます。
Microsoft Windows Server 2003 CDを挿入し、**Enter**キーを押します。

図3-7

Microsoft Windows Server 2003 CDを挿入する



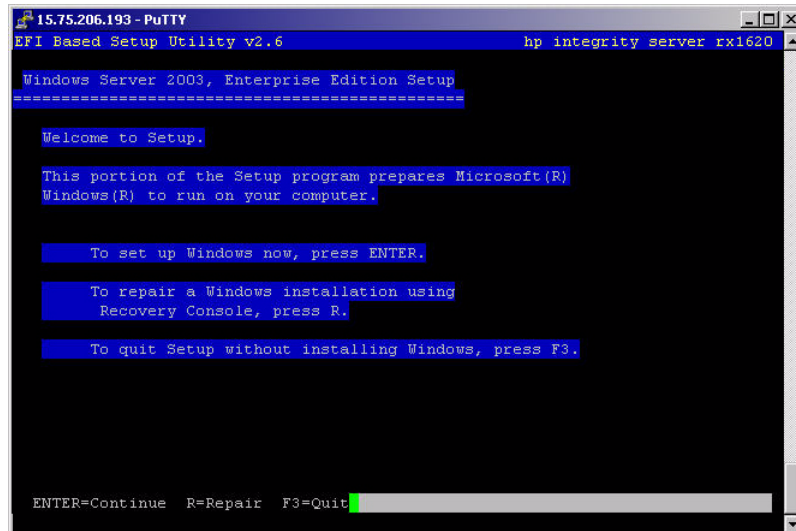
Windows Setupを実行する

必要に応じてブートディスクにシステムパーティションを作成し、そのパーティションにオペレーティングシステムファイルをコピーし、ブートディスクからリブートするメッセージが表示されます。

手順1. DVDドライブにMicrosoft Windows Server 2003 CDを挿入すると、Windows Setupが起動します。
Enterキーを押して、インストールを開始します。

図3-8

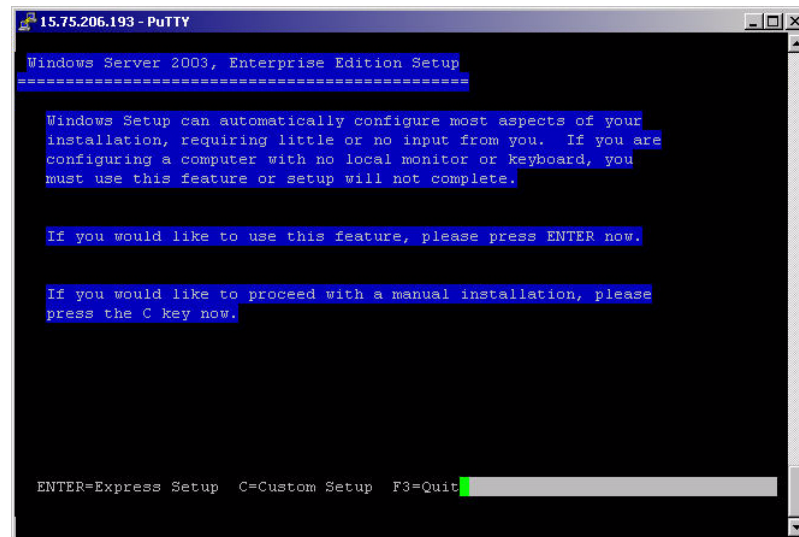
Windows Setupを起動する



手順2. **Express Install**または**Custom Install**の選択を指示するメッセージが表示されます。[Express Install]を選択すると、さまざまなインストール オプションが自動的に選択されるため、ユーザの操作はほとんど必要ありません。**Enter**キーを押して、[Express Install]を選択します。

図3-9

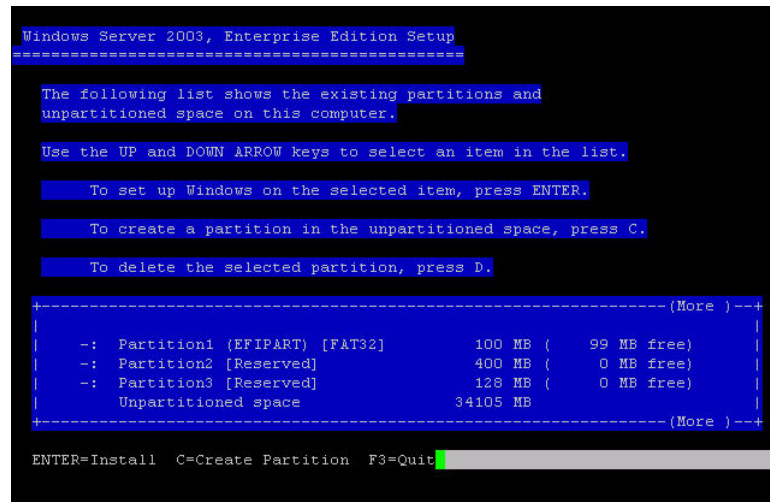
インストール タイプを選択する



- 手順3. システム パーティションが存在しない場合、パーティションの作成を指示するメッセージが表示されます。**Enter**キーを押して続行します。パーティションが作成され、パーティションのフォーマットを指示するメッセージが表示されます。
- 手順4. OSをインストールしたいパーティションを選択し、**Enter**キーを押します。必要に応じてパーティションがフォーマットされ、パーティション エラーがチェックされ、OSファイルのコピーが開始されます。

図3-10

インストール パーティションを選択する



- 手順5. コピー プロセスが完了するまで監視します。

図3-11

Installerファイルをディスクにコピーする



コピーが完了すると、リブートが開始します。システムがリブートします。

サーバ設定を指定する

ローカル コンソールから初めてブートした後で、Windows Server 2003をセットアップするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. システムが起動すると、EMS(緊急管理サービス)チャネル(MPリモート ポート)が存在することを示す画面が表示されます。このモードでは、マウスとキーボードが動作するまでに2〜15分かかります。
- 手順2. サーバ設定の入力を指示するメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
- 手順3. Windows Setupウィザードから、以下のセットアップ情報を入力します。
 1. [マイクロソフト ソフトウェア 使用許諾書]で、[同意します]をクリックし、[次へ]をクリックします。
 2. [地域と言語のオプション]ウィンドウで、[次へ]をクリックします。
 3. [プロダクト キー]ウィンドウに、プロダクト キーを入力し、[次へ]をクリックします。
プロダクト キーは、サーバに添付されたラベルに記載されています。
 4. [ライセンス モード]ウィンドウで、購入したライセンスを選択し、[次へ]をクリックします。
 5. [コンピュータ名とAdministrator のパスワード]ウィンドウに、サーバ名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。
 6. [日付と時刻の設定]ウィンドウで、適切な時間帯を選択し、[次へ]をクリックします。サーバがEFIブートマネージャからリブートします。
- 手順4. EFIの[Boot Menu]から、[Windows Server 2003]を選択します。サーバがWindowsからブートします。
- 手順5. 先に指定したAdministratorのパスワードで、システムにログインします。
- 手順6. OSをインストールした後は、HP Smart Update CDを使用してHP Support Packをインストールします。

リモート コンソールからのインストール

リモート コンソールからインストールするには、HP Smart Setupメディアからブートした後、EBSUを実行します。Windows Setupが起動した後、ブート ディスクにOSファイルがロードされます。ロードされたら、ブート ディスクからサーバをブートします。**HyperTerminal**のような端末エミュレーション アプリケーションを使用して、対象サーバのMPに接続します。リモート コンソールを使用してOSをインストールするには、以下の手順に従ってください。

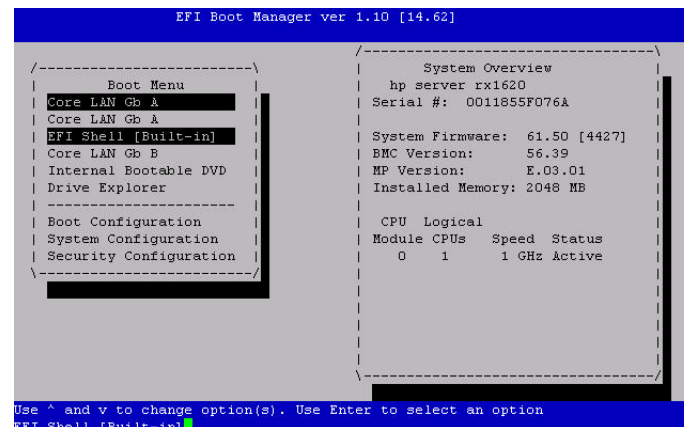
EBSUを実行する

EBSUは、ファームウェアをフラッシュし、ハードディスクをパーティションに分割し、診断ツールをインストールし、ストレージ コントローラを構成し、他のEFIユーティリティを実行するための使いやすいインタフェースを提供しています。

手順1. サーバの電源を入れます。サーバがEFIからブートします。

図3-12

EFIからブートする



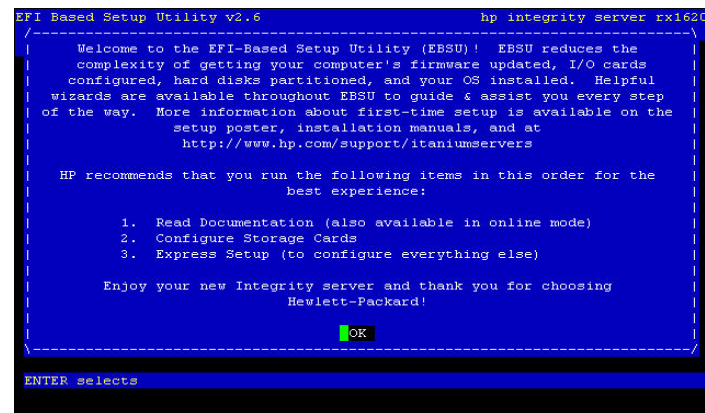
手順2. サーバのDVDドライブに、HP Smart Setupメディアをロードします。

手順3. EFIの[Boot Menu]から、[Internal Bootable DVD]を選択し、**Enter**キーを押します。

手順4. EBSUが起動し、[Welcome]画面が表示されます。[OK]を選択し、**Enter**キーを押して続行します。

図3-13

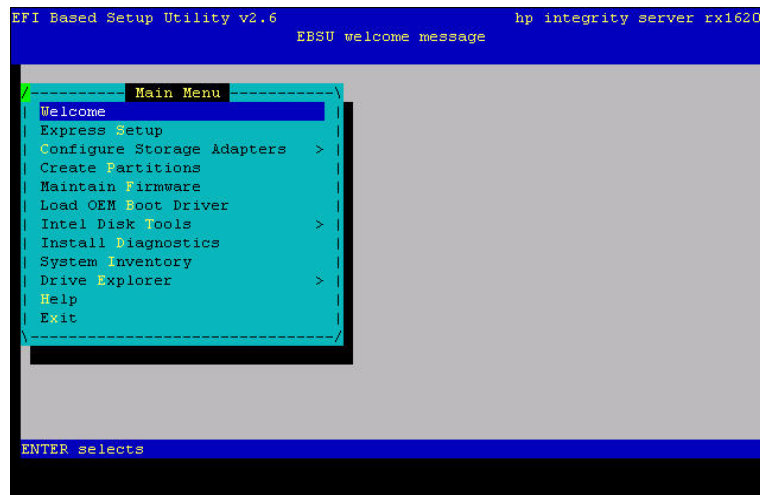
EBSUに入る



手順5. メインメニューから、[Express Setup]を選択し、**Enter**キーを押します。

図3-14

[Express Setup]を選択する

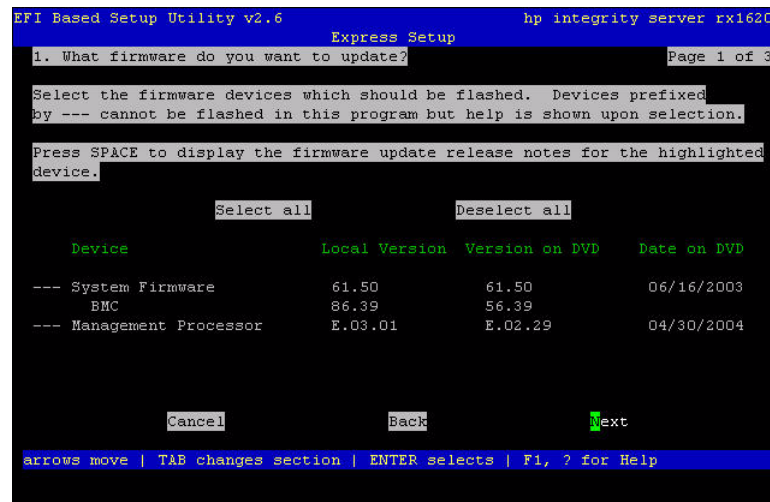


手順6. Express Setupの開始画面が表示されます。**Enter**キーを押して続行します。

手順7. 各デバイス、インストールされているファームウェアバージョン、Smart Setupメディア上のファームウェアバージョンをリストするファームウェア更新画面が表示されます。ファームウェアを更新したいデバイスを選択します。[Next]を選択し、**Enter**キーを押して続行します。

図3-15

ファームウェアを更新する



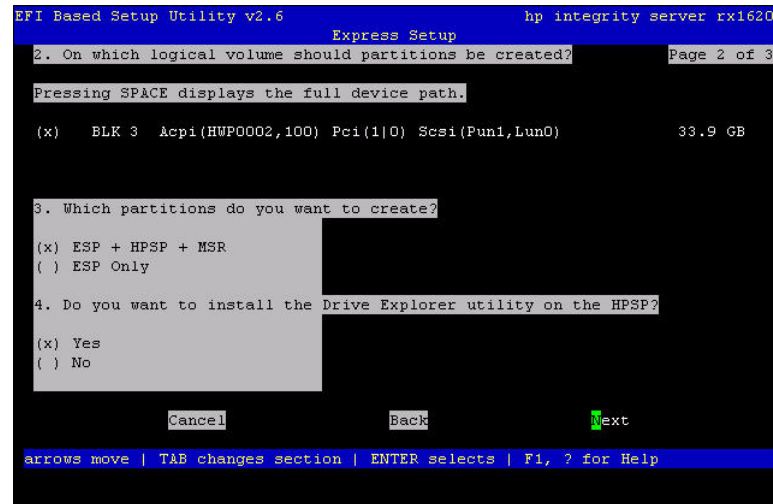
注

EBSUを使用しても、デバイスのファームウェアをフラッシュできない場合があります。インストールされているバージョンが、Smart Setupメディア上にあるバージョン以上の場合は、ファームウェアをフラッシュできません。また、EBSUを使用しても、MPのファームウェアはフラッシュできません。HP Integrityサポート サイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/> (英語) から、最新のMPファームウェアをダウンロードし、別々にフラッシュする必要があります。

手順8. 作成したいディスク パーティションを指定します(**ESP専用**または**ESP+HPSP+MSR**)。サーバのメンテナンスを簡素化する手段として、デフォルトのESP+HPSP+MSRをおすすめします。また、EFIでドライブを参照できるように、Drive Explorerユーティリティをインストールするオプションを指定します。**[Yes]**を選択します。**[Next]**を選択し、**Enter**キーを押します。

図3-16

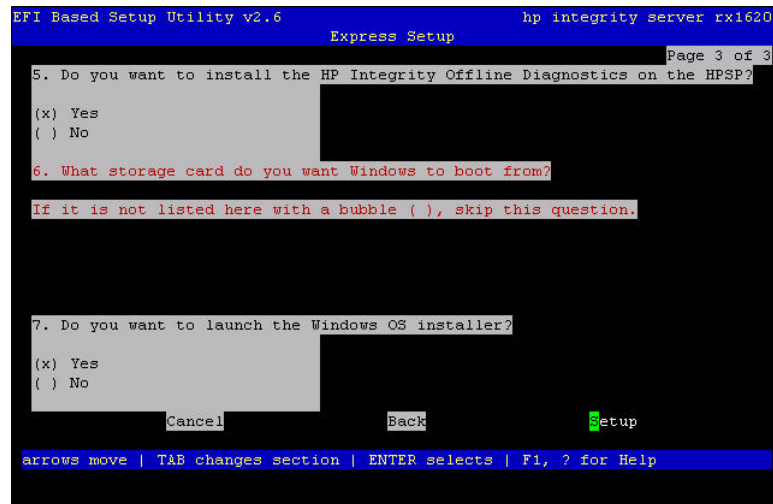
ディスク パーティションを作成する



手順9. (HP Itanium Processor Family offline diagnostics and utilities CDから) オフライン診断ツールをインストールするオプションを指定します。**[Yes]**を選択します。また、Windows OS Installerを起動するオプションを指定します。**[Yes]**を選択します。**[Setup]**を選択し、**Enter**キーを押します。

図3-17

診断ツールをインストールする

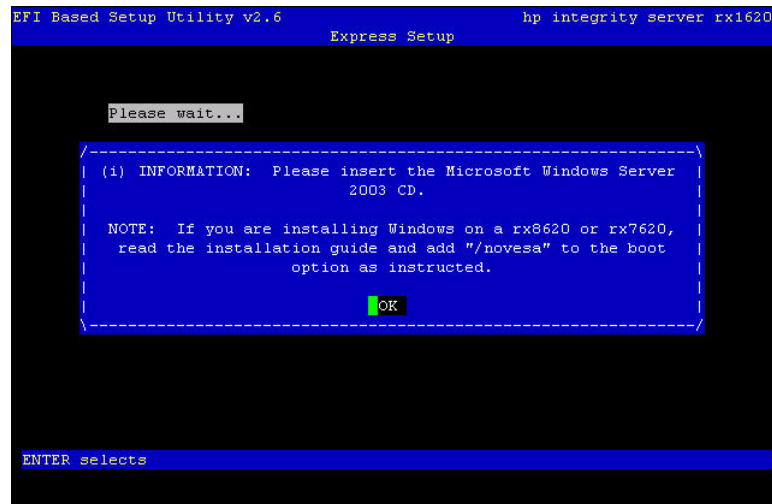


手順10. パーティション確認ウィンドウが表示されます。**[Continue]**を選択し、**Enter**キーを押します。

手順11. DVDドライブに、Microsoft Windows Server 2003 CDの挿入を指示するメッセージが表示されます。
Microsoft Windows Server 2003 CDを挿入し、**Enter**キーを押します。

図3-18

Microsoft Windows Server 2003 CDを挿入する



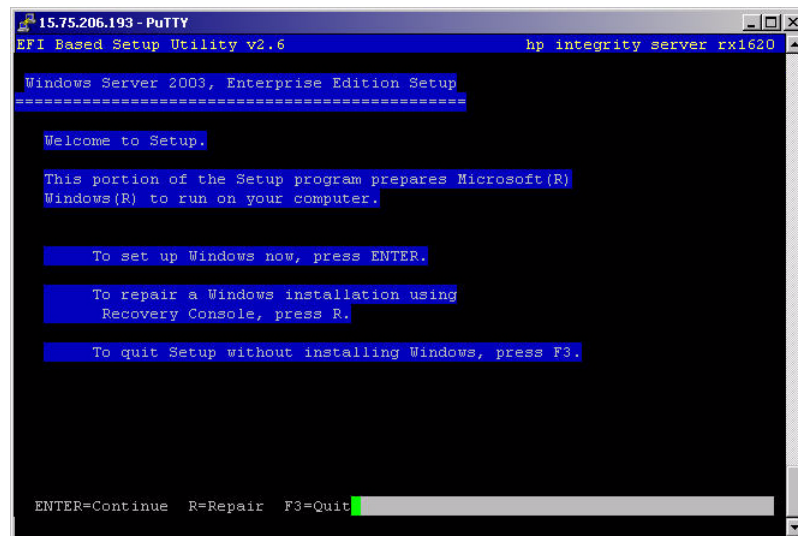
Windows Setupを実行する

必要に応じてブート ディスクにシステム パーティションを作成し、そのパーティションにオペレーティング システム ファイルをコピーし、ブート ディスクからリブートするメッセージが表示されます。

手順1. DVDドライブにMicrosoft Windows Server 2003 CDを挿入すると、Windows Setupが起動します。**Enter**キーを押して、インストールを開始します。

図3-19

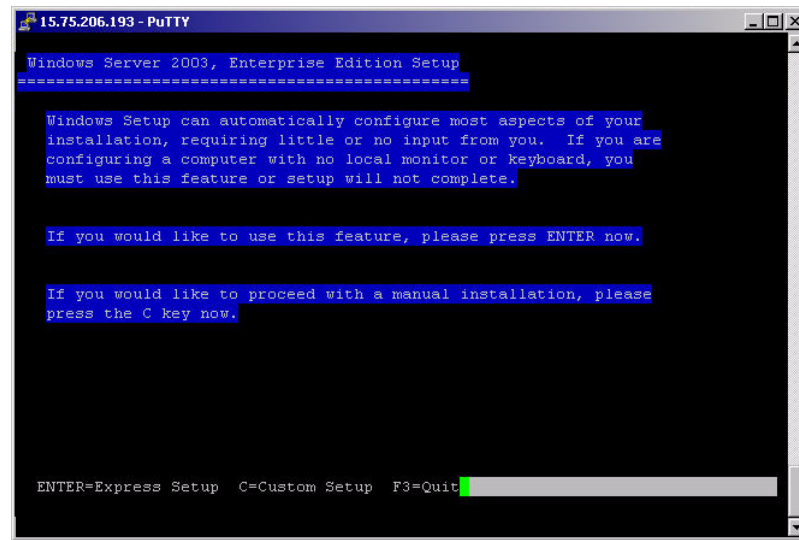
Windows Setupを起動する



手順2. [Express Install]または[Custom Install]の選択を指示するメッセージが表示されます。[Express Install]を選択すると、さまざまなインストール オプションが自動的に選択されるため、ユーザの操作はほとんど必要ありません。**Enter**キーを押して、[Express Install]を選択します。

図3-20

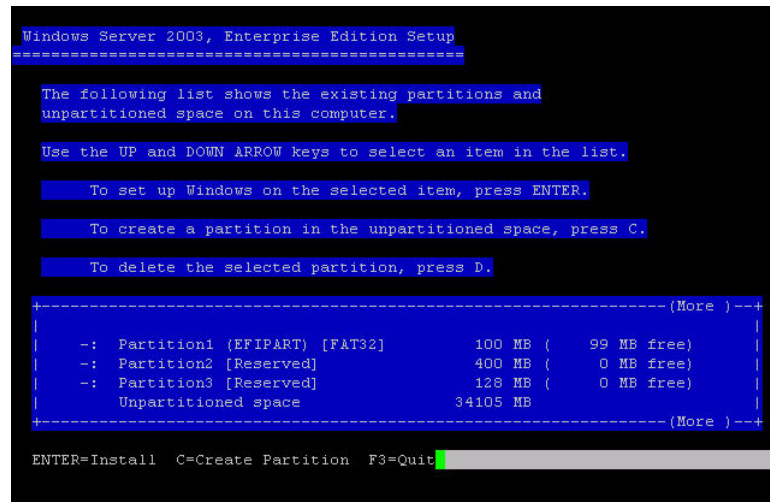
インストール タイプを選択する



- 手順3. システム パーティションが存在しない場合、パーティションの作成を指示するメッセージが表示されます。**Enter**キーを押して続行します。パーティションが作成され、パーティションのフォーマットを指示するメッセージが表示されます。
- 手順4. OSをインストールしたいパーティションを選択し、**Enter**キーを押します。必要に応じてパーティションがフォーマットされ、パーティション エラーがチェックされ、OSファイルのコピーが開始されます。

図3-21

インストール パーティションを選択する



- 手順5. コピー プロセスが完了するまで監視します。

図3-22

Installerファイルをディスクにコピーする



コピーが完了すると、リブートが開始します。システムがリブートします。

プロダクト キーを入力する

- 手順1. SACプロンプトで、**Esc+Tab**キーを押して、新しいコマンド チャンネルに切り替えます。
- 手順2. メッセージが表示されたら、プロダクト キーをタイプし、**Enter**キーを押します。

PXEからインストールする

PXE/RISインストールのサポートは、以下のHP Integrityサーバに制限されています。

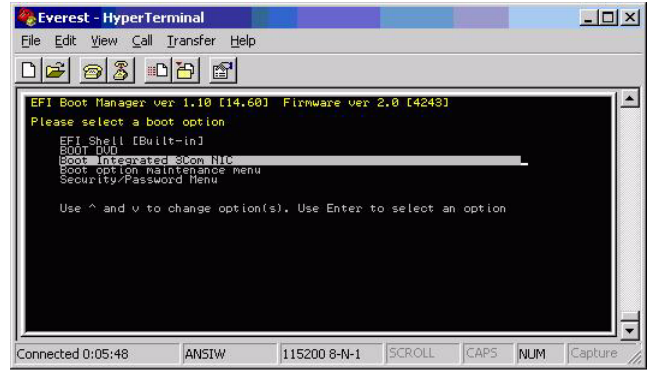
表3-1 PXE/RISインストールをサポートしているIntegrityサーバ

サーバ	PXE/RISサポート
rx1620、rx2600、rx2620、rx4640、rx5670	対応
rx7620、rx8620	対応（Enterprise Editionのみ）
Superdome	非対応

PXEからWindows Server 2003をインストールするには、以下の手順に従ってください。

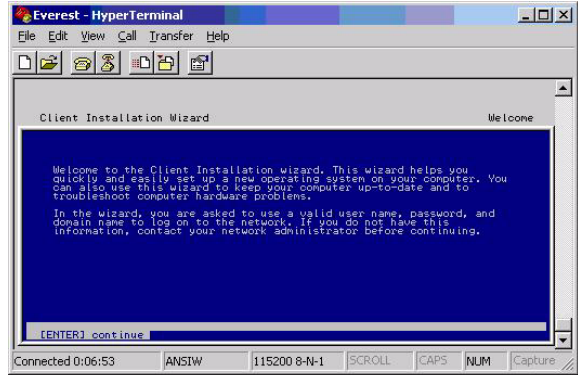
- 手順1. EFIから、[EFI Boot Manager]を選択します。
- 手順2. Boot Managerで、[OS Boot Options Maintenance Tool]メニューを選択します。
- 手順3. 使用できるブートソースのリストから、ブートするNICを選択し、**Enter**キーを押します。

図3-23 NICを選択する



- 手順4. PXEブート ステータス ウィンドウで、**Enter**キーを押して続行します。

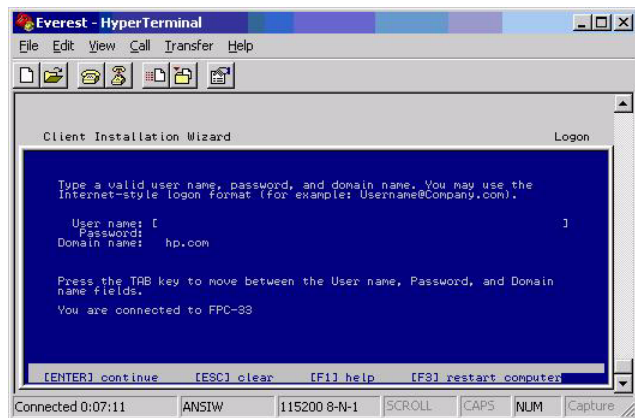
図3-24 PXEブート ステータスを確認する



手順5. ログイン画面で、有効なユーザ名とパスワードをタイプし、**Enter**キーを押します。

図3-25

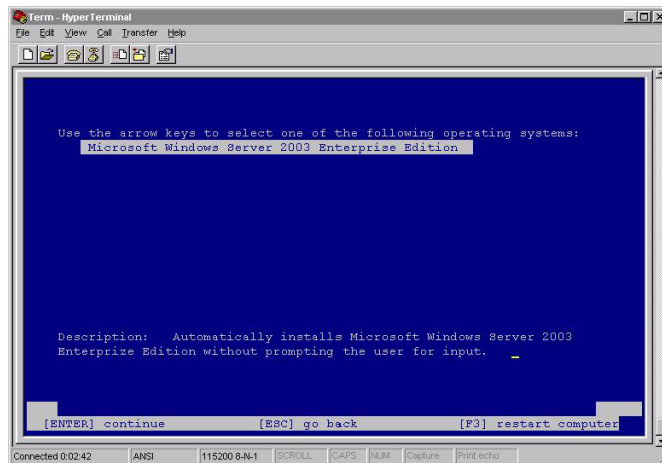
RISサーバにログインする



手順6. OS選択画面で、インストールしたいOS(Windows Server 2003, Enterprise Edition)を選択し、**Enter**キーを押してインストールを開始します。

図3-26

インストールしたいOSを選択する



手順7. 画面の指示に従って、インストールを完了します。

ローカル コンソールからの再インストール

Windows Server 2003がプリインストールされたHP Integrityサーバには、必要に応じてシステムをデフォルト設定に復元できるHP再インストール用メディアが付属しています。オペレーティング システムを再インストールするには、再インストール用メディア上のイメージをブート ディスクにロードし、Windows Server 2003がロードされた後で、サーバ設定を指定します。

警告

再インストールすると、ブート ディスク上のすべてのファイルが更新されます。なお、ブート ディスクはバス検索順序で決定されるため、予期したディスクにならない場合があります。ブート ディスクを除くすべてのドライブをサーバから切断するか、取り外すことをおすすめします。この推奨事項には、すべてのSANストレージも含まれます。

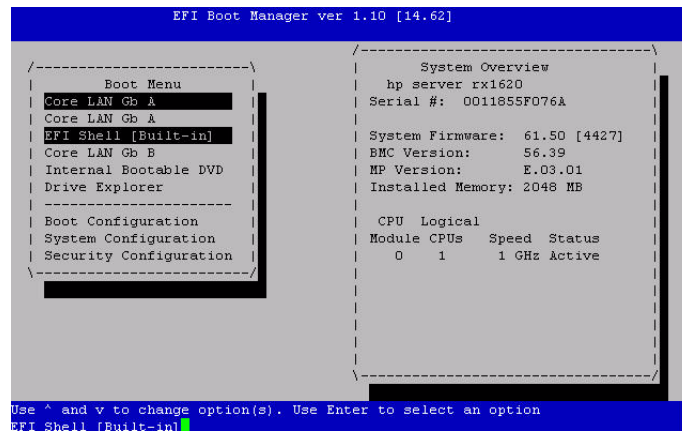
システム イメージをロードする

ローカル コンソールから、サーバにSP1が適用されたWindows Server 2003オペレーティングシステムをインストールするには、以下の手順に従ってください。

手順1. サーバをEFIからブートします。

図3-27

EFIからブートする



手順2. SP1が適用されたWindows Server 2003は、すでにブート エントリが存在する場合にはブート エントリを作成できないため、既存のブート エントリを削除する必要があります。ブート エントリを削除するには、以下の手順を実行してください。

1. [EFI Boot Manager Menu]、[Boot Option Maintenance Menu]、[Delete Boot Option(s)]の順に選択します。
2. 削除するWindows Server 2003のブート エントリを選択して、**Enter**キーを押します。

手順3. DVDドライブに、HP再インストール用メディアを挿入します。

手順4. EFIブート マネージャで、[Internal Bootable DVD]を選択し、**Enter**キーを押します(存在する場合)。

このエントリが存在しない場合は、以下の手順を実行してください。

1. [EFI Shell]を選択します。
2. EFIシェルで、DVDファイル システムを選択します。
たとえば、DVDファイル システムが「fs1」の場合、**fs1:**とタイプします。
3. **setupldr**とタイプしてブート ロードを起動します。

手順5. [HP Recovery Console]で、[Re-Install]をクリックします。

手順6. Yと入力して再インストール手順を続行します。

手順7. 必要なパーティション サイズ(推奨サイズは33GB)を選択します。最大パーティション サイズは、ドライブのサイズに制限されます。**[OK]**をクリックして続行します。

注

インストール プロセスによって、ファイルがハードディスクにコピーされます。長時間にわたって[99% complete]が表示される場合があります。サーバの電源を切らないでください。

手順8. ダイアログ ボックスが表示されたら、**[OK]**をクリックして続行します。

手順9. **[Exit]**をクリックします。サーバが、Windows Server 2003オペレーティング システムからリブートします。次の項の指示に従って、システムをセットアップしてください。

サーバ設定を指定する

ローカル コンソールから初めてブートした後で、Windows Server 2003をセットアップするには、以下の手順に従ってください。

手順1. サーバを起動します。

EMSチャンネル(ヘッドレス サーバMPポート)が存在することを示すポップアップ画面が表示されます。このモードでは、マウスとキーボードが動作するまでに2〜15分かかります。

手順2. ローカル コンソールで、セットアップ情報の入力を指示するメッセージが表示されたら、**[OK]**をクリックします。

手順3. Windows Setupウィザードから、以下のセットアップ情報を入力します。

- 1.[マイクロソフト ソフトウェア 使用許諾書]で、**[同意します]**をクリックし、**[次へ]**をクリックします。
- 2.[地域と言語のオプション]ウィンドウで、**[次へ]**をクリックします。
- 3.[プロダクト キー]ウィンドウに、プロダクト キーを入力し、**[次へ]**をクリックします。
プロダクト キーは、サーバに添付されたサーバに記載されています。
- 4.[ライセンス モード]ウィンドウで、購入したライセンスを選択し、**[次へ]**をクリックします。
- 5.[コンピュータ名と Administratorのパスワード]ウィンドウに、サーバ名とパスワードを入力し、**[次へ]**をクリックします。
- 6.[日付と時刻の設定]ウィンドウで、適切な時間帯を選択し、**[次へ]**をクリックします。

サーバがEFIブートマネージャからリブートし、Windows Server 2003を起動します。

以上で、選択したAdministratorのパスワードを使用して、サーバにログインできます。

リモート コンソールからの再インストール

Windows Server 2003がブリインストールされたHP Integrityサーバには、必要に応じてシステムをデフォルト設定に復元できるHP再インストール用メディアが付属しています。オペレーティング システムを再インストールするには、再インストール用メディア上のイメージをブート ディスクにロードし、Windows Server 2003がロードされた後で、サーバ設定を指定します。

警告

再インストールすると、ブート ディスク上のすべてのファイルが更新されます。なお、ブート ディスクはバス検索順序で決定されるため、予期したディスクにならない場合があります。ブート ディスクを除くすべてのドライブをサーバから切断するか、取り外すことをおすすめします。この推奨事項には、すべてのSANストレージも含まれます。

システム イメージをロードする

リモート コンソールから、Windows Server 2003を再インストールするには、以下の手順に従ってください。

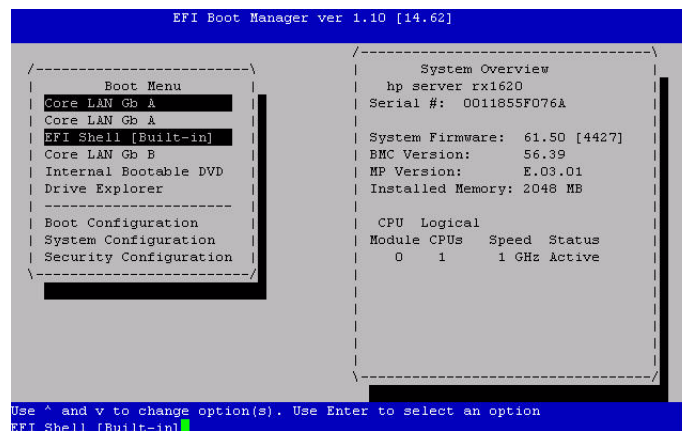
手順1. サーバをEFIからブートします。

1. [EFI Boot Manager Menu]、[Boot Option Maintenance Menu]、[Delete Boot Option(s)]の順に選択します。
2. 下矢印キーを使用して、削除するブート エントリを選択し、**Enter**キーを押します。

手順2. リモート コンソールから、**HyperTerminal**や**PuTTY**などの端末エミュレータを使用して、MPにログインします。

図3-28

EFIからブートする



手順3. 対象システムのDVDドライブに、HP再インストール用メディアを挿入します。

手順4. サーバをリブートします。

手順5. リモート コンソールのMP>プロンプトで、COコマンドを入力して使用可能なコンソールを起動します。

手順6. EFIの[Boot Manager Menu]、[Internal Bootable DVD]の順に選択し、**Enter**キーを押します。サーバがHP再インストール用メディアからブートします。

手順7. SAC>プロンプトで、cmdとタイプします。

手順8. **Esc+Tab**キーを押して、新しいコマンドプロンプト チャンネルに切り替えます。

手順9. **x:\ia64\system32>**プロンプトで、**txtstore**と入力して、インストール メニューを起動します。再インストールによって、パーティション テーブル データを含むすべてのデータが消失することを示す警告メッセージが表示されます。

手順10. **Y**と入力して続行します。

手順11. 必要なパーティション サイズ(推奨サイズは33GB)を選択します。最大パーティション サイズは、ドライブのサイズに制限されます。**[OK]**をクリックして続行します。

注 インストール プロセスによって、ファイルがハードディスクにコピーされます。長時間にわたって[99% complete]が表示される場合があります。サーバの電源を切らないでください。

手順12. インストール プロセスが完了すると、ローカル コンソールに、EMSが検出されたことを示す画面が表示されます。ローカル コンソールを使用するメッセージが表示されたら、**[OK]**をクリックしないでください。

手順13. リモート コンソールに戻り、次の項の指示に従って、システムをセットアップしてください。

サーバ設定を指定する

リモート コンソールから初めてブートした後で、Windows Server 2003をセットアップするには、以下の手順に従ってください。

手順1. **SAC>**プロンプトで、**Esc+Tab**キーを押して、チャンネル1に切り替えます。

次の画面が表示されます。

```
*****
Name:                               Unattended Setup Channel
Description:                         Provide parameters to automate Setup
Type:                               VT-UTF8
Channel GUID:                       0cfc0ee2-3a27-11d7-8484-806e6f6e6963
Application Type GUID: 00000000-0000-0000-0000-000000000000

Press <esc><tab> for next channel.
Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.
Use any other key to view this channel.

*****
```

手順2. 任意のキーを押し、**Page Down**キーを押します。

手順3. **F8**キーを押して、マイクロソフト ソフトウェア 使用許諾書に同意します。

Windowsのデフォルト端末エミュレータでは、**F8**キーは**<Esc>8**です。**Esc**キーを押してから2秒以内に**8**を押します。**Esc**キーを押してから2秒以内に**8**を押さないと、**Esc**キーだけが認識され、システムが再起動します。

手順4. プロダクト キーを入力します。

プロダクト キーは、サーバに添付されたMicrosoftの証明書に記載されています。

手順5. Administratorのパスワードを入力し、確認のために再入力します。

Mini-setup プロセスが自動的に継続し、完了すると、システムがリブートします。**SAC>**プロンプトが再表示されるのを待ちます。

手順6. 端末サーバクライアントを開き、サーバのIPアドレスに接続します。

必要に応じて、コンピュータ名とIPアドレスを変更します。

- 手順7. デスクトップで、[OnlineReference]ページを開き、一番下までスクロールして[c:\hp\utils\usercompanyname.com](http://utils.usercompanyname.com)へのリンクをクリックします。
- 手順8. メッセージが表示されたら、会社名とユーザ名を入力し、[OK] をクリックして、セットアップを完了します。

EFIシェルによる新しいブート ファイルの作成

新しいブート ファイルを作成するには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. DVDドライブからすべてのメディアを取り出します。
- 手順2. [EFI Boot Manager Menu]から、[EFI Shell]を選択し、**Enter**キーを押します。
- 手順3. EFIシェル プロンプトで、**fs0:**と入力します。
- 手順4. **fs0:>**プロンプトで、**cd MSUTIL**と入力します。
- 手順5. **fs0:¥MSUTIL>**プロンプトで、**NVRBOOT.EFI**ブート ユーティリティを実行します。
- 手順6. **X**と入力して現在のEFIブートの内容をブート ファイルにエクスポートします。
- 手順7. 「Windows Server 2003」というテキストを含む最初のエントリを選択します。
- 手順8. プロンプトで、**EFI¥Microsoft¥Winnt50¥boot0001**というパスを入力します。これにより、**boot0001**というWindowsブート ファイルが作成されます。

ブート ファイルが正常に作成されたことを確認する

ブート ファイルが正常に作成されたことを確認するには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. [EFI Boot Manager Menu]から、[EFI Shell]を選択し、**Enter**キーを押します。
- 手順2. EFIシェル プロンプトで、**fs0:**と入力します。
- 手順3. **fs0:>**プロンプトで、**cd MSUTIL**と入力します。
- 手順4. **fs0:¥MSUTIL>**プロンプトで、**NVRBOOT.EFI**ブート ユーティリティを実行します。
- 手順5. **I**と入力して、インポートを実行します。
- 手順6. **EFI¥Microsoft¥Winnt50¥boot0001**というパスを入力します。
- 手順7. [Exit]をクリックして、EFIブート マネージャ メニュー ユーティリティに戻ります。
- 手順8. 新しいWindowsエントリを使用して、サーバをブートします。

インストールの確認

この項では、OSが動作していることを確認する作業について説明します。

ハードウェア ステータスをチェックする

Windowsのデバイス マネージャは、組み込まれたハードウェア デバイスの問題とリソース競合を検出したり、評価したりするための総合的なツールです。

サーバのハードウェア ステータスをチェックするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. Windowsから、**[マイ コンピュータ]**アイコンを右クリックします。
- 手順2. **[プロパティ]**ボタンをクリックして、**[システムのプロパティ]**ウィンドウを表示します。
- 手順3. **[ハードウェア]**タブをクリックします。
- 手順4. **[デバイス マネージャ]**をクリックして、**[デバイス マネージャ]**ウィンドウを表示します。
- 手順5. リストされたデバイスを参照して、黄色の感嘆符(!)または疑問符(?)が表示されていないことを確認します。
 - **黄色の感嘆符(!)**は、当該デバイスのハードウェア問題、デバイス ドライバが認識されていないこと、.iniファイルがないこと、リソース競合を示します。
 - **疑問符(?)**は、当該デバイスが組み込まれていることを「知らされ」ているが、検出したり、認識したりできないことを示します。
- 手順6. 感嘆符(!)または疑問符(?)が表示されたデバイスをダブルクリックして、**デバイスのプロパティ** ダイアログ ボックスを表示します。プリンタを使用できる場合は、**[操作]**メニューを開き、**[印刷]**を選択して、すべてのデバイス ステータスのハードコピー レポートを印刷します。

注

非表示デバイスが有効になっていると、**[デバイス マネージャ]**の**[プラグアンドプレイではないドライバ]**に黄色の感嘆符が表示される場合があります。黄色の感嘆符は、**[デバイス マネージャ]**の**[プラグアンドプレイではないドライバ]**で、**[非表示のデバイスを表示]**が有効になっている場合にのみ表示されます。

システム内で従来型のシリアル デバイスが検出されない場合、OSは、シリアル オプションに対して黄色の感嘆符を生成します。HP Integrity rx8620およびrx7620サーバには、従来型のシリアル デバイスがないため、このエラーは必ず発生します。この場合、黄色の感嘆符は、ハードウェアの障害を示していません。

新しいデバイス ドライバをインストールする

Microsoft RTMメディアからOSをインストールした場合は、システムのデバイス マネージャで黄色の感嘆符(!)アイコンが表示されているすべてのデバイスに対して、HP Integrityサーバ用のデバイス ドライバもインストールする必要があります。ドライバはHP Smart Setup CDに収録されています。

Smart Setup CDからデバイス ドライバをインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. サーバのCD/DVDドライブにHP Smart Setup CDを挿入します。**[End User License Agreement]**ウィンドウで**[Agree]**をクリックします。
- 手順2. Windowsデバイス マネージャを実行し、**[表示]**、**[デバイス (種類別)]**の順に選択して、システムのデバイス一覧を表示します。
- 手順3. 他のデバイスのエントリを展開します。

この手順では、オペレーティング システムのインストール中に検出されなかったデバイス ドライバの一覧が示されています。一部のデバイスに特定の名前が付いている場合があるため、名前が付いていない他のデバイスは「不明デバイス」と表示されます。各項目には黄色の小さい感嘆符(!)アイコンが名前の横に表示されます。

- 手順4. 最初の項目で右クリックし、コンテキスト メニューから[ドライバの更新]を選択します。
- 手順5. [ハードウェアの更新ウィザード]画面で[ソフトウェアを自動的にインストールする]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 手順6. ドライバにデジタル署名がないという警告ダイアログが表示された場合は、無視します。問題のない警告ダイアログであるため、[次へ]をクリックして続行します。
- 手順7. インストールが正常に終了したことを示すウィンドウが表示されたら、[完了]をクリックします。

リモート デスクトップ接続をセットアップする

リモート デスクトップ接続(RDC)を確立すると、リモート コンピュータで、オペレーティング システムが起動して実行していることを確認できます。

注

HP再インストール用メディアより、OSをインストールした場合は、デフォルトで、Windows Server 2003のリモート管理モードが有効になっています。Microsoft RTMメディアを使用して、インストールまたは再インストールしている場合は、リモート デスクトップ機能は有効になっていません。[マイ コンピュータ]の[プロパティ]タブから、リモート デスクトップ機能を有効にする必要があります。ユーザには固有のユーザ名が必要です。Windowsでは、同じユーザ名を持つ2人のユーザが同時にログオンすることはできません。

RDCをセットアップするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. [スタート]メニューから、[全てのプログラム]、[アクセサリ]、[通信]、[リモート デスクトップ接続]の順にクリックします。
- 手順2. [コンピュータ]ドロップダウン リストをクリックします。
- 手順3. [<参照...>]を選択します。
- 手順4. 接続を確立したいHP Integrityサーバを選択します。
- 手順5. [OK]をクリックします。
- 手順6. [接続]をクリックします。
- 手順7. リモート サーバにログオンします。
サーバ用のデスクトップが表示されます。

4 サーバの更新

この章では、Windows Server 2003をリモート管理する手順について説明します。また、サーバ用の最新のパッチ、フィックス、更新されたユーティリティおよびマニュアルを入手できる Web サイトへのリンクを提供します。自動通知に登録すると、更新の通知を受信できます。

システムの更新

OSをインストールした後にシステムを更新する場合は、次の方法があります。

- HP Smart Setup CDからIntegrity Support Packをインストールする
- HPのWebサイトから最新の更新をインストールする

注

Superdome、rx8620、およびrx7620サーバ用のファームウェア更新は、サポート契約に従って、HPのCEが実行する必要があります。

OSのインストール時に、HP再インストール用メディアを使用しなかった場合は、Integrity Support Packをインストールする必要があります。

Integrity Support Packをインストールする

Integrity Support Packをインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. 別のPCからRDC接続を使用して、Administratorとしてサーバにログインします。
- 手順2. サーバ(RDC構成の一部)に対して、ローカルのマシン上のCDドライブが利用可能であることを確認します。
- 手順3. リモートPCのCD/DVDドライブに、HP Smart Setup CDを挿入します。
Smart Setup CDは自動的に起動し、[End User License Agreement]ウィンドウで[Agree]をクリックします。
- 手順4. [Accept]をクリックして、続行します。
- 手順5. [Install Support Pack]をクリックします。
- 手順6. [Install ISP]をクリックし、HPリモート展開ユーティリティを起動します。
- 手順7. [Target Machine]フィールドで、アップデートするサーバのマシン名またはIPアドレスをタイプします。
- 手順8. Support Packのプルダウン リストから、必要なサポート パックを選択します。
- 手順9. [Install]をクリックします。

Webから更新をインストールする

HP の Web サイト <http://www.hp.com/products1/servers/integrity/index.html> (英語) にアクセスし、[Support & Drivers]を選択してください。

HPサポート通知に登録する

サーバ固有のドライバ、パッチ、その他のコンポーネントの更新通知を受信するために、HPサポート通知に登録することをおすすめします。

HPのWebサイト<http://www.hp.com/united-states/subscribe/gateway/> (英語) を参照してください。

Microsoftセキュリティ通知に登録する

オペレーティング システムのパッチ通知を受信するために、Microsoftセキュリティ通知に登録することをおすすめします。

Microsoft社のWebサイト<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/bulletin/notify.mspx> (日本語)を参照してください。

Microsoft Windows Updateに登録する

オペレーティング システムに、最新のパッチやホットフィックスをダウンロードできるMicrosoft Windows Update機能を使用することをおすすめします。

Microsoft社のWebサイト<http://support.microsoft.com/>を参照してください。

システムのリモート管理

サーバが正常に動作している場合は、ネットワーク経由でサーバに接続し、Windows Management Instrumentation (WMI)、Terminal Services Remote Desktop for Administration、Microsoft Management Console (MMC)、Telnet、Microsoft Script Host、その他の他社製ツールを使用して、サーバを管理できます。

- **WMI**: 共通インタフェースを通じて、システム リソースの監視とコントロールをサポートし、論理的に組織された一貫性のあるWindowsの運用、構成、ステータスのモデルを提供するWindowsの管理インフラストラクチャ。
- **Terminal Services**: リモート デスクトップ、リモート アシスタンス、ターミナル サーバを有効にする基礎技術。
- **MMC**: スナップインと呼ぶ管理ツールが常駐するフレームワーク。コンソールには、ツール、フォルダ、または他のコンテナ、World Wide Webページ、その他の管理項目が含まれている場合があります。
- **Telnet**: インターネット ユーザが、コンピュータに直接接続されたテキスト ベースの端末を使用しているかのように、インターネットに接続されたリモート コンピュータにログオンしたり、コマンドを入力したりできるプロトコル。Telnetは、TCP/IPプロトコル スイートの一部です。また、Telnetという用語は、このプロトコルを実装するソフトウェア(クライアントまたはサーバ コンポーネント)を表します。

サーバが正常に動作していない場合は、ネットワークに依存せずに、サーバにアクセスする必要があります。電話回線、シリアル ポート、または追加ネットワーク接続(セカンダリ ネットワーク)を通じて、安全な接続を確立する必要があります。

適切なファームウェアを搭載したサーバの場合は、サーバをリモート管理できる機能を EMS が提供しています。ハードウェアのメンテナンスと交換を除き、ローカル実行できるすべての管理機能をリモート実行できます。リモート実行できる作業には、システムの起動や復旧作業も含まれます。

EMSは、Windows Server 2003の標準機能であるコンポーネントから構成され、コンソール リダイレクション機能が追加されています。

また、EMSには、固有のリモート管理コンソールであるSpecial Administration Console(SAC) も含まれています。リモート システムから、このコンソールにアクセスするには、Telnet、PuTTY、HyperTerminalのような端末エミュレーション ソフトウェアを使用します。

Special Administration Console(SAC)

SACは、Windows Server 2003がサポートしている主要なEMSコマンドライン環境です。SACは、通常のコマンドライン環境とは別のものであり、異なる機能を提供します。

SACはブート プロセスの初期の段階で使用できるため、通常のシステム運用や起動中のサーバ管理に使用できます。また、システムがセーフ モードやGUIモードセットアップ状態にある場合にも使用できます。EMSが有効になっている場合、SACは、カーネルが動作している限り、動作を継続します。

SAC が動作しているときは、SACプロンプト(SAC>)が表示されます。SAC は、システムを正常動作状態に戻すために使用できる1組のコマンドを提供しています。

- **restart**: サーバを再起動します。
- **shutdown**: コンピュータをシャットダウンします。コンピュータを再起動できるようにコンピュータの前にいるとき以外は、このコマンドを使用しないでください。

- **T**: 現在動作しているプロセスとスレッドを表示します。
- **K<PID>**: 指定されたプロセスを終了します。PIDは、指定するプロセス識別番号です。
- **I**: サーバのインターネット プロトコル(IP)アドレスを設定したり、表示したりします。パラメータを指定しないと、IP 情報が表示されます。ネットワーク番号、IP アドレス、サブネット情報を指定すると、指定したネットワーク インタフェース デバイスのIPアドレス、サブネット マスク、ゲートウェイを表示したり、設定したりすることができます。
これらの項目を表示、設定するには、I <network#><IPAddress><subnet>を使用します。
- **crashdump**: 手動でStopエラー メッセージを生成し、強制的にメモリ ダンプ ファイルを作成します。Stopエラーは、オペレーティング システムに影響し、データが消失する可能性がある重大なエラーです。オペレーティング システムは、動作を継続してデータが消失することがないように、Stopエラーメッセージを表示します。
致命的なシステム エラーと呼ぶこともあります。
- **cmd**: Windowsコマンドプロンプト チャネルを作成します。コマンドプロンプト チャネルを使用するには、有効なログオン証明書を提供する必要があります。各コマンドプロンプト インスタンスにログオンする必要があります。コマンドプロンプト チャネルとSACを切り替えるには、**Esc+Tab**キーを押します。コマンド プロンプト チャネルが応答しない場合は、**K**(終了) コマンドを使用してコマンドプロンプト チャネルを閉じると、別のコマンドプロンプト チャネルを開くことができます。
- **ch**: すべてのチャネルを表示します。

ヒント

使用できるすべてのSACコマンドを表示するには、次のように、SACプロンプトで、**?**または**help**とタイプします。
SAC>help

チャネル管理コマンドのヘルプを表示するには、次のようにタイプします。
SAC>ch -?

また、SACは、GUIモードセットアップ中に、セットアップ ログへのアクセスを提供します。セットアップ ログとSACを切り替えるには、**Esc+Tab**キーを押します。EMSからセットアップ ログにアクセスすると、セットアップのどの部分が完了し、エラーが発生したかどうかを確認できます。セットアップの進捗状況をチェックし、セットアップの障害を診断する際に、非常に便利な方法です。

次のように、3つのセットアップ ログ チャネルがあります。

- *setuplog.txt*: セットアップの進捗状況を監視します。
- *setupact.log*: セットアップ中の警告を表示します。
- *setuperr.log*: セットアップ中に発生する可能性のあるエラーを表示します。

D

DVD/CD ドライブ
マッピング, 26

H

HP Integrity サーバで PXE をセットアップする, 24

O

OS
インストール, 29
インストールの確認, 50

P

PXE クライアント
インストール、Windows, 12

い

移行
Windows, 21
インストール
OS, 29
PXE/RIS の使用
Windows, 12
環境の選択, 9
準備, 17
ローカル コンソールの使用
Windows, 10
インストールの確認
OS, 50

き

既存のハードウェアと Windows Server との互換性
付属品およびアクセサリ
チェック, 21

け

検出とマッピング
DVD/CD ドライブ, 26

せ

セットアップ
リモート デスクトップ接続, 51

ち

チェック
既存のハードウェアと Windows Server 2003 との互換性
付属品およびアクセサリ, 21
ハードウェア ステータス, 50

て

手順
ハードウェア ステータスのチェック, 50

は

ハードウェア ステータス
チェック, 50

ま

マッピング
DVD/CD ドライブ, 26

り

リモート コンソール
セットアップ, 22
リモート デスクトップ接続
セットアップ, 51

